



# PLAYERS' TALK NO.2

映画と音楽が教えてくれる、本当の身体  
What Movies and Music Teach Us about the True Nature of the Body

## 長岡亮介

音楽家

## 山戸結希

映画監督

### P.1

**RYOSUKE NAGAOKA**  
MUSICIAN

× **YUKI YAMATO**  
FILM DIRECTOR



# TOKYO PAPER for Culture

トーキョーペーパー  
フォーカルチャー



第十四号 2016 Autumn  
FOURTEENTH ISSUE  
平成28年9月14日発行

# 014

ARTS COUNCIL TOKYO TRAINING

P.5

My Odd Plays and Fine Plays  
信濃八太郎 HATTARO SHINANO P.16

P.16  
写真・文 岡本 仁  
Text and Photograph by Hitoshi Okamoto  
東京新陳代謝  
Tokyo Transitions

東京記録  
TOKYO RECORDS  
RECORD NO. 002 | 楽曲のタイトル The Title of Songs P.13

東京カチート  
アーケード・ブルース

東京アートポイント  
計画 **ハイライト**  
Spotlight on the Tokyo Artpoint Project P.14

リオデジャネイロからバトンを受け継いだ東京は、4年後の2020年、どんな景色を私たちにを見せてくれるのだろう。この街で暮らす私たちもまた、その景色を作る立派なプレイヤーなのは間違いない。新陳代謝を繰り返しながら、日々珍プレー好プレー。記録を塗り替えながら、日常の記憶は積み重なっていく。

Rio de Janeiro has now passed the baton to Tokyo. What kind of face will Tokyo present to us four years from now in 2020? Make no mistake, all of us living in the metropolis are part of the team of star players who will create its scenery. Every day, we make some great plays and hit some bloopers in a repeated process of renewal. We break old records and set new ones, turning them into a chronicle of our daily lives.



# PLAYERS' TALK NO.2

映画と音楽が教えてくれる、本当の身体  
What Movies and Music Teach Us about the True Nature of the Body



## 長岡亮介

音楽家

## 山戸結希

映画監督

**RYOSUKE NAGAOKA** × **YUKI YAMATO**  
MUSICIAN FILM DIRECTOR

プレイヤーとしてのあなたの心意気を、スポーツのマインドで解き明かしたい。そんな想いのもと前号から始まった「プレイヤーズトーク」。第2回目となる今回は、新鋭の映画監督、山戸結希さんと、名プレイヤーとしての存在感を放つ長岡亮介さんが登場してくれました。

This is the second interview in the Players' Talk series, which adopts a sporting mindset to shed light on the player spirit that lives in all of us. In this edition, we welcome up-and-coming film director Yuki Yamato and Ryosuke Nagaoka, who has made a name for himself as a talented player.

山戸：長岡さんは大きな舞台での活動と、個人的な追求を鮮やかに横断している印象があって、本当に尊敬しています。

長岡：ありがとうございます。僕自身は単純に、音楽が有りのままの形で「良い方がよいじゃん」という、そこで判断してどんな活動も自分がピンときたらやるようになってきただけなんです。本当は、大きな場所では大きな振る舞いを

しなきゃいけないはずなんですけど。

山戸：でもそれは大きな場所でも個人的なスタンスをちゃんと持ち込んでるってことですよね。

長岡：それは、そうかもしれない。大きな場所になった途端、急に振る舞いが変わったら、それは恥ずかしいし苦いなあ。

山戸：これまで一度もぐらっときたことないですか？ 例えば2階の誘惑に。



長岡：2階の誘惑……？

山戸：ステージから「2階のみんなー！ 飛ばしていこうぜー！」みたいな（笑）。

長岡：ない（笑）。それこそ右も左も分からない頃から売れちゃって、大人たちにちやほやされていたら、そんな誘惑にもはまっていたのかもしれないけれど。

山戸：その、「2階ー！」がちよっと恥ずかしくて苦く感じる理由は、長岡さんという、個人の身体が出発点になった振る舞いではなくて、社会化された振る舞いをなぞることになるからってことではないでしょうか。10代の少女少年の頃から、それと同じように、社会の中で限定的な振る舞いを求められてきた苦しさがあるか

ら。そしてそれが今の日本の社会の同調圧力に接続してくるというか。本来、個人にとっての本物の振る舞いとは、そんな社会化された振る舞いから自分の身体が引き剥がされたときにこそ生まれるんじゃないかなと思いますね。そのある種の瑞々しい瞬間を、たしかに、零さずに捉えていきたい、と。

長岡：監督の『溺れるナイフ』、観せてもらいました。全体的に人物をすごく引いて撮られていましたよね。とにかくそのフレーミングが新鮮だったんですけど、でも今話を聞いていて、その理由がわかったような気がして。

山戸：とっても嬉しいです。オリンピックって、私たちに馴染みのない競技もあるじゃないですか。

新鮮な競技。役者が演出家によって初めての自分を引き出される時の感覚って、そんな馴染みのない、初めての競技をプレイすることと、恐らく似ているところがある気がします。

**長岡:** それは初めての楽器に触ることとも近いかもしれない。最初は違和感ばかりが出てくるんだけど、それは言い換えれば瑞々しいと言えるし、新しい奏法が生まれたり、音色が出たり。そこから引き出される自分って楽器によって変わることがあるから。

**山戸:** 面白いですね。楽器によって、自分が発掘されてしまうということですね。

**長岡:** あると思います。あとね、『溺れるナイフ』を観てもうひとつ思ったことが、映像に対して音楽が対等な関係を結んでいるように感じたこ

とです。それは今まであまり味わったことのない感覚だった。(※)

**山戸:** 映画における映像と音楽の主従関係は、これからの時代、すごく面白いトピックだろうなって思っています。もしかすると主従が完全に逆転する瞬間というもの、今後あるかもしれません。そもそも音楽は、身体にける呪いのような側面があると思っています。私自身、高校生の頃、長岡さんが作詞作曲された「OSCA」が収録された東京事変のアルバム『娛樂』を聴きながら登校していて、今でも「OSCA」を暗唱できるんです。もはや身体に刷り込まれているから。それくらい、私の10代はずっと音楽が鳴っていた。その感覚がはつきりと自分の中に残っています。だから今、10

代をテーマにした映画を撮ろうとすると、当時聴いていた音楽が、もしかして思い出よりも際立って迫り来るのではないかというのが、自分の身体の記憶としてしっかりあるんですね。

**長岡:** 記録よりも記憶ってね。よく言われることだけど、音楽はそういう面があると思います。

**山戸:** 本当に、そうですね。例えばライブをやる時、音楽家は舞台上で身体が晒されますよね。それはもしかしてアスリートのように。そういうとき、どこを目指そうとしますか？

**長岡:** そのときの頑張りどころって、実は難しい。スポーツのように、速ければいい、熱ければいいというわけでもないから。とはいえ実際にはアスリートの方たちは膨大なスキルで結果を出していると思うんだけど。なんて言えばいいのだろう、ちょっと射的をする感覚に近いのかもしれない。

**山戸:** 楽器を使つて的を射るわけですね。楽器に運動が伴えば、物理的に音は鳴りますよね。例えば、そのとき長岡さんの感情がオフだったとしても。そうではなくて、感情が楽器に移った先に鳴る音という体験も、あるのでしょうか？ これはずっと聞きたかったことです。

**長岡:** ありますよ。理想的ですね。滅多にないけれど。

**山戸:** 滅多にないということはいつもはどこか客観的で冷静だったり……。

**長岡:** 基本的にずっと冷静なのかもしれないです。わーっ！って感情が高ぶることは、ほぼなくて。そもそも自分の感情よりも、お客さんの感情の方が大切に、例えば会場を包む空気を感じながら、「ああ、今いいな。今幸せだな」って思うことの方が多いですね。監督は現場でどうですか？

**山戸:** 私は完全に裏方なので身体が晒されることはないんですが、だからといって現場で感情のスイッチを完全に切って冷静でいることがベストなのかというと、それもまたちょっと違うんです。役者さんに対して「このシーンはこうだから、こういう要素が足りない」と、論理的に言

葉で共有していくことの方が多いのですが、一方で役者さんと一緒に、ときにそれ以上に、自分が泣いたり叫んだりせざるを得ない場面も、非常に稀ですが、たまに訪れます。もちろんそれは表舞台には乗らない運動ですけど、確かな身体の躍動がある。私の感情がオフでも役者さんは動いてくれますし、効率を重んじてそっちのスタイルを持っていたいのですが、でも、監督としての自分自身の個的な身体と役者さんが出会ってしか映らない瞬間もあって、その破壊力は、まだ言葉では説明できない力だなどと思います。そういえば、長岡さんにとって、楽器は自分の身体の一部だと感じることはあるのでしょうか。

**長岡:** 「調子いいぞ」って、身体の一部になったような気持ちになるときとときあるけれど、まあそんなにはないですね。きっとそれは普段から自分がいろんな楽器を使っていることもあるかもしれない。ひとつの楽器じゃないぶん、その楽器に合わせて弾くことの方が多くなるから。

**山戸:** なるほど、道理ですね。長岡さんにとっての楽器のような存在が、私にとっては役者さんだと思うと、すごく腑に落ちます。私も長岡さんのようにいろんな楽器に触りたい。それはもう世界中の楽器と。

**長岡:** その楽器を自分が鳴らすと。

**山戸:** 『溺れるナイフ』の現場では、10代最後の時間を過ごす小松菜奈さんがそこにいて、私は小松さんの、最後の少女時代を自分が鳴らしたかったんだと思いますね。望月夏芽という役を通じて、菅田将暉さんの危うさも眩しさも、そうです。その楽器の命の中で、一番美しい記憶を鳴らしたい。自分の技術はまだ全然追いついていないとしても、気持ちとしてはいつもそうありたいですね。それがスクリーンに映る気がするのです。

※30曲を超える劇中音楽に加えて、大森靖子、tofubeats、吉幾三などの多彩なアーティストたちの曲を挿入歌に採用。また主題歌は、本作にキャストとしても参加している志磨遼平(ドレスコース)が、毛皮のマリーズの楽曲を再録音。



## PLAYERS' TALK NO.2

映画と音楽が教えてくれる、本当の身体

What Movies and Music Teach Us about the True Nature of the Body

**Yamato:** I've got a huge amount of respect for you, Nagaoka-san, because it seems to me that you've brilliantly bridged the gap between major stage performances and pursuing your personal passions.

**Nagaoka:** Thank you very much. All I've done is follow my instinct that "if it's good, it's right," getting involved with the things that immediately strike a chord with me, no matter what, while letting the music speak for itself. To be honest, when you're on the big stage, you have to exaggerate your persona to match.

**Yamato:** But that still means bringing your own personal stance to bear, even on the big stage, doesn't it?

**Nagaoka:** Perhaps. But changing your persona completely as soon as you hit the big time would be awkward and embarrassing.

**Yamato:** Has anything ever made you tremble? Like egging on the audience on the balcony, for instance.

**Nagaoka:** Egging on the audience on the balcony...?

**Yamato:** I mean, like yelling from the stage, "Everyone on the balcony! Let's bring the house down!" (laughs).

**Nagaoka:** Never (laughs). Well, if I'd been popular before I knew what was what and had been indulged by grown-ups, I suppose I might have

got addicted to that kind of thing.

**Yamato:** I guess the reason you'd find that kind of playing to the balcony awkward and embarrassing is that you're acting out socialized behavior rather than taking your own body as the starting point for your demeanor. Because similarly, young people have experienced the struggle of being forced to adhere to restrictive constraints on their behavior in society since their teenage years. That leads into the pressure to conform that you see in Japanese society today. I think that an individual's true demeanor actually emerges when they tear their body away from that kind of socialized behavior. I want to capture that instant of raw freshness.

**Nagaoka:** I watched the film you directed, *Oboreru Knife* [Drowning Love]. You've pulled right back from the characters in your shots of them. The framing was fresh and now you've told me that, I get the feeling I understand why.

**Yamato:** I'm delighted about that. The Olympics includes sports that we're unfamiliar with. Sports that feel fresh and new. It seems to me that playing in an unfamiliar contest for the first time might well be similar to the feeling you get when a director brings out a new facet of an actor's self for the first time.

**Nagaoka:** It might be close to the feeling you get

when you touch a new instrument for the first time, too. At first, it just feels awkward, but I guess you could call it a kind of freshness, and then new playing techniques and timbres start to emerge. That's because the aspect of your personality brought out in that process varies according to the instrument.

**Yamato:** That's interesting. You discover yourself through musical instruments.

**Nagaoka:** I think that does happen. Another thing that occurred to me when I watched *Drowning Love* was that the music seemed to be positioned on an equal footing with the images. It was a feeling I haven't really experienced before. (\*)

**Yamato:** The master-servant relationship between images and music in a film is going to be a really interesting topic in the years to come, I think. Maybe there'll even be moments when the roles of master and servant are reversed. At any rate, I think that music can almost work like a magic spell on the body. When I was a high school student, I listened to the Tokyo Jihen album *Variety* over and over again on my way to school. Even now, I still know by heart all the words to your song 'OSCA' from that album. Because they're imprinted on my body. That's how much I was surrounded by music all through my teens. And I still clearly remember that sensation even

now. So now, when I'm making films about the teenage years, the music that I was listening to back then is still with me as a physical memory that I think is more overwhelming than my actual recollections of my teens.

**Nagaoka:** It's vinyl records that stay with us, not written records. They often say that music has the power to evoke vivid memories.

**Yamato:** You're absolutely right. For example, musicians put their bodies on the line when they're on stage playing a gig. Like athletes do, perhaps. What do you focus on at times like that?

**Nagaoka:** It's really hard to say what I aim for in those situations. Because you're not trying to go faster or sweat more like in sport. Having said that, I do think that athletes actually get results because of their incredible skill. I'm not sure how to describe it; I suppose it's almost like target practice.

**Yamato:** So you're using a musical instrument to hit the target. If you bring a movement to bear on an instrument, you get a physical sound, right? Even if your emotions are switched off, for instance. Do you ever have the experience of an instrument sounding after you've imbued it with your feelings? I've been wanting to ask you that for ages.

**Nagaoka:** Yes. Ideally. Hardly ever, though.

**Yamato:** "Hardly ever." You're always objective

例えばライブ。大事な場面で道を逸れてしまうのが、結構好き。ミスも含めて。予想外のことを呼び起こす、柔軟な身体はいつも持っていたい。

——長岡亮介

When I'm playing live, for instance. I actually quite like straying off piste in high-profile situations. Including making mistakes. I want to have a flexible physique that inspires the unexpected forever.

——RYOSUKE NAGAOKA

#### 最短距離を走るよりも

山戸：長岡さんは好プレーはたくさんあっても、珍プレーはあまりなさそうですね。

長岡：僕は珍プレーばかりですよ。もう8割くらいが珍プレー。あとの1割が普通で、もう1割が好プレー。そんな割合かな。

山戸：へえ、それは意外ですね。

長岡：ものすごく不謹慎ですけど、実は大事な場面で道を逸れてしまうのが、結構好き。ミスも含めて。

山戸：(笑)。予定調和ではなくなることを楽しんでいるんですね。例えばそれがペトロールズで

演奏しているときの場合、ほかのメンバーの方はどんな反応をされるんですか？

長岡：あったかい感じの、苦笑い。常温よりもちょっと上ぐらいの(笑)。監督は撮ってる時、どうなんですか？

山戸：私も9割9分珍プレーです(笑)。

長岡：珍プレー同士だ(笑)。でもそうやってちょっとつまずいたりぶつかったりしながら、自分はこうしたいっていうものが見えてくるところがあって。それがわかるから、最初から完璧を目指して作り上げていくっていうことは、まずない。

山戸：そうやって迂回しながら作る方が結果、



一番ゴールに近い。最短距離を求めると、結局言葉で整理可能なものしか生まれないのかもしれない。

長岡：身体を使って体感的に作りたいたいという気持ちがあるのかも。特に自分ひとりではなく

て人と一緒に作る時は、相手の状態もあるからまずはそれを見ながらキャッチボールから始める。監督もきっとそうでしょう？

山戸：はい。それはすごくコミュニケーションのコストがかかる方法ですよね。



and cool-headed, somehow.

Nagaoka: I guess I've always been level-headed at heart. I almost never get really excited about stuff. The audience's feelings are more important than my own. For instance, I'm much more inclined to soak up the atmosphere at the venue and think, "It's great right now. They're happy right now." What about you when you're making a film?

Yamato: I'm completely behind the scenes, so I'm never physically exposed, but that doesn't mean that it's best for me to be totally calm and switch off my emotions on set. While I mostly share my thoughts logically with the actors in words, saying things like, "This scene's like this, so this kind of element's missing," there are situations — admittedly very rare ones — when I have to cry or scream as much as — if not more than — the actors. Of course, I don't have to do that for the

cameras, but there's certainly a physical dynamism involved. Even if my emotions are switched off, the actors will still act, and I do want to have that kind of directing style, to be more efficient. But there are moments that can only be captured on film as a result of the actors' encountering my own individual body as a director, and I think that destructive force has a power that I still can't put into words. Incidentally, do you ever feel like an instrument is part of your own body, Nagaoka-san?

Nagaoka: Occasionally, I feel like it's an extension of my own body, at times when I feel like I'm on form, but I hardly ever feel. That might be because I usually use a variety of musical instruments. Because you have to tailor your playing style to the individual instrument, if you're not playing the same one all the time.

Yamato: Of course, that makes sense. It really

strikes a chord with me: what musical instruments are to you, actors are to me. I want to come into contact with a range of instruments, like you do. Instruments from all over the world.

Nagaoka: You have to sound those instruments yourself.

Yamato: On the set of *Drowning Love*, we had Nana Komatsu, who was experiencing the end of her teenage years. I think I wanted to add my own timbre in sounding the end of her girlhood through her role as Natsume Mochizuki. It was

the same with that sense of peril and dazzling brilliance you get from Masaki Suda. I want to sound the most beautiful memories of that instrument's life. Even if my skills haven't yet caught up with my ambition, I want to feel that way forever. Because I get the impression that will transfer onto the screen.

\*As well as more than 30 songs composed for the film, the soundtrack includes songs by a diverse array of artists, including Seiko Oomori, tofubeats, and Ikuzo Yoshi. The theme song is a cover version of a Kegawa no Maries song by Ryohei Shima (the dresscodes), who also appears in the film as a member of the cast.



長岡：そうそう。

山戸：例えば「ここからあそこまでを全力で走ってください」って役者さんに言うことは簡単ですけど、そうではなくて私の知らないところで自ら駆け出してなりふり構わず疾走していた、ということがときどきあって。でも結果的にその方が奇跡のようなカットに繋がることもあるんですよ。それは当然コストのかかる振る舞いなんですけど。

長岡：予想外のことを呼び起こす。そういう柔軟な身体、振る舞いはいつも自分の中に持っていたいですね。

### 東京ローカル

山戸：私は大学生のときに愛知から上京したんですが、下北沢のライブハウスで初めてペトロールズを観たときは、それこそ東京だなあって感じました。

長岡：そのときよりはもうちょっとうまくなってるから、またぜひ観に来て下さいね。

山戸：いえいえ、当時も熱狂して帰りました。最近すごく思うことが東京発の自主映画は、私にとってはそれこそライブを観る感覚と近いんですよ。この熱い渦は確実に東京で生まれている。それをどうやって冷ますことなく全国各地や世界に届けられるのだろうっていうことは、東京にしながら私自身ちゃんと考えなければいけないのが、ここ最近の、ひとつのテーマでした。長岡さんにとって東京はどんな場所ですか？

長岡：若い頃は東京に対して妙なコンプレッ

クスみたいなものがあった「東京、怖いな」と思っていたんだけど、よくよく考えればそれも当時の渋谷や新宿とか、一部の場所に対する印象で。本当は東京ってもっと広くて、いろんな場所がある。探検すると面白いんです。ということに気づいていくと、どんどん自分自身、気楽にいられるようになったというか、東京はローカルだなあって、最近思うようになってきています。まあ、それも年だからかもね。

山戸：東京ローカルか。上京してからの方が、地元にいるときよりも自分の意見が言いやすくなったっていうのがすごいですね。フラットでいられる感じは、自分の作る作品に確実に影響してる気がします。

長岡：いろんな人がいるから、そのぶん自由を感じられるんじゃないかな。

山戸：東京はやっぱり多様性がありますよね。長岡さんはこの街に生まれて音楽はありますか？

長岡：空想で曲を作ることはなくて、ここで暮らしていることが自分の音楽に反映されていることはありますね。

山戸：はい、鏡みたいに。ああ、やっぱり聞きたいな。長岡さん、今さっき「それも年だからかもね」って言われたの、ひょっとしてダジャレだったのでしょうか？

長岡：……?? どういう意味？

山戸：「年」だけじゃなくて、「都市」も含まれているのかなって。

長岡：おお！ 笑いたくても笑えなかった？ 監督のアンテナが何よりすごい（笑）。

### Rather Than Taking the Shortest Route

**Yamato:** Your record of great plays is extensive, but it seems to me that you don't have many bloopers.

**Nagaoka:** I make nothing but bloopers. About 80% of what I've done has been bloopers. 10% has been ordinary, and another 10% falls into the great plays category. I guess that's the ratio.

**Yamato:** I didn't expect that.

**Nagaoka:** It's a terrible thing to say, but I actually quite like straying off piste when I'm playing a major gig. Including making mistakes.

**Yamato:** (Laughs) You enjoy destabilizing the pre-established harmony, right? How do the other members of Petrolz, for example, react when you do that in the middle of a performance?

**Nagaoka:** A warm, if wry smile. Just a little warmer than room temperature (laughs). What's it like when you're filming?

**Yamato:** 99% bloopers (laughs).

**Nagaoka:** We're fellow blooper artists (laughs). But I think that if you stumble and blunder your way along, you'll eventually come to see what you actually want to do. I realize that, so I never ever aim to achieve perfection from the outset.

**Yamato:** Taking diversions like that actually gets you closest to your goal. If you're looking for the shortest route, maybe you only end up with something that can be summarized in words.

**Nagaoka:** I guess perhaps I do want to use my body to create a work through a sensory experience. Particularly when I'm creating something with others rather than on my own, things also depend on their mood as well, so I always start by playing catch with them to get some insight into that. I guess it's the same for you?

**Yamato:** Yes. It's a method with a high cost in terms of communication.

**Nagaoka:** That's right.

**Yamato:** For instance, it's simple to tell an actor, "I want you to run from here to there as fast as you can," but sometimes they've dashed off at full pelt of their own accord, without my expecting it. But you can end up with a miraculous cut because of that, sometimes. That kind of behavior comes at a cost, of course.

### Provincial Tokyo

**Yamato:** I came up to Tokyo from Aichi for university; when I saw Petrolz for the first time at

a small music venue in Shimokitazawa, I finally felt I was really in Tokyo.

**Nagaoka:** We're a bit better now than we were back then, so do come and see us again.

**Yamato:** Oh, even then I went home totally exhilarated. Recently, I've been feeling really strongly that the independent films coming out of Tokyo are something akin to the experience of seeing a live gig. Tokyo is definitely spawning this intense maelstrom of feeling. The question is how to bring this to other parts of Japan and the rest of the world without cooling that passion. That's become a focus for me recently — I've got to consider it properly while I'm right here in Tokyo. What kind of place do you see Tokyo as, Nagaoka-san?

**Nagaoka:** When I was young, I had a weird complex about Tokyo, believing it to be scary, but when I thought about it really hard, that was just my impression of a few places, like Shibuya and Shinjuku in those days. Really and truly, there's much more to Tokyo than that — there are all kinds of places here. It's really interesting to explore. And when I realized that, I began to feel more comfortable here and recently I've even begun to think of Tokyo as just another provincial city. Well, maybe that's just my age.

**Yamato:** Provincial Tokyo.... I really feel like I can express my opinions more freely since coming to the metropolis than I could when I was in my hometown. I definitely get the sense that being

able to do as I please is influencing the works I make.

**Nagaoka:** There are so many different people here, so maybe that makes you feel like you've got more freedom.

**Yamato:** Tokyo's really diverse, isn't it? Have your experiences in Tokyo inspired any of your music?

**Nagaoka:** I never make music in a vacuum, so my life here is certainly reflected in my music.

**Yamato:** Yes, like a mirror. Oh, I did want to ask

### 長岡亮介 Ryosuke Nagaoka

音楽家。1978年千葉生まれ。ギタリストとしての活動のほかにも楽曲提供、プロデュースなど活動は多岐にわたる。自身がフロントマンを務めるバンド「ペトロールズ」では、歌とギターを担当し、昨年初のフルアルバム『Renaissance』をリリース。現在、全国16か所を巡るツアー「On The Road Again Again」を開催中。www.petrolz.jp

Musician. Born in 1978 in Chiba. As well as his work as a guitarist, his diverse activities include songwriting and production for other artists. He sings and plays guitar as frontman of Petrolz, which released its first full album *Renaissance* last year. The band is currently on a 16-date nationwide tour entitled "On The Road Again Again." www.petrolz.jp

you something. Nagaoka-san, when you said "maybe that's just my age" just now, was that a bit of a pun...?

**Nagaoka:** ....??? What do you mean?

**Yamato:** You didn't just mean "age," but also "city?" [In Japanese, these two words are homophones]

**Nagaoka:** Oh! You couldn't laugh, even though you wanted to? Your antennae as a director are quite incredible (laughs).

### 山戸結希 Yuki Yamato

映画監督。愛知生まれ。2012年上智大学在学中に「あの娘が海辺で踊ってる」でデビュー。2014年「5つ数えれば君の夢」が渋谷シネマライズの監督最年少記録で公開され、「おとぎ話みたい」がテアトル新宿レイトショー観客動員を13年ぶりに更新する。最新作にジョージ朝倉の人気少女漫画を小松菜奈、菅田将暉のW主演で実写映画化した「溺れるナイフ」(11月5日から全国公開)がある。

Film director. Born in Aichi. Made her debut in 2012, while still a student at Sophia University, with the film *Ano ko ga Umibe de Odotteru* [That Girl Is Dancing by the Seaside]. In 2014, her film *Itsutsu Kazoereba Kimi no Yume* [Count Five to Dream of You] was released at Shibuya's Cinema Rise, making her the youngest director to have a film shown there, while *Otogibanashi Mitai* [Like A Fairytale] attracted the best late show audiences for 13 years at Theatre Shinjuku. Her latest work is *Oboreru Knife* [Drowning Love], a live-action version of George Asakura's popular manga for teenage girls, starring Nana Komatsu and Masaki Suda (released in cinemas nationwide on November 5).

役者と一緒に、ときにそれ以上に、自分も泣いたり叫んだりせざるを得ない一瞬が来る。身体の躍動によって引き起こされる力を、まだ言葉では説明できない。

山戸結希



There are moments when I have to cry or scream as much as — if not more than — the actors. I can't yet put into words the power that physical dynamism evokes.

—YUKI YAMATO

# アーツカウンシル東京

ARTS COUNCIL TOKYO TRAINING

アーツカウンシル東京 (=アツカン) が主催するプログラムをご紹介します。  
さあ、芸術文化力を高めるトレーニングをはじめましょう。

Sharpen your arts and culture game by training with this introduction to programs organized by Arts Council Tokyo.

SPECIAL ISSUE

2016

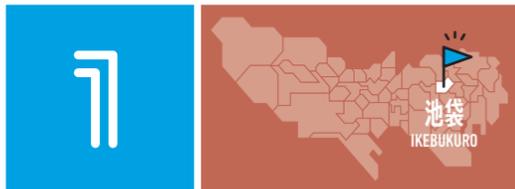
9-12月

SEPTEMBER-DECEMBER



もりだくさんのアートイベントで  
この秋、東京中がお祭りさわぎ!

With a multiplicity of art events throughout the metropolis,  
Tokyo's going to have a carnival atmosphere this autumn!



# 東京芸術祭2016

東京の多彩な舞台芸術を体感できる109日間

## Tokyo Metropolitan Festival 2016

Indulge in the diversity of Tokyo's performing arts over the course of 109 days.

世界の舞台が集合!  
The world's stages converge!



東京の芸術文化とその魅力を国内外に広く伝えるとともに、新たな価値観をはぐくむための交流と参加の場となることを目指した都市型総合芸術祭。東京・池袋の地を舞台に、「フェスティバル/トーキョー16」「東京芸術劇場く芸劇オータムセレクション」「としま国際アート・カルチャー都市発信プログラム」「アジア舞台芸術人材育成部門」の4つのプログラムが集結します。先鋭的な演目や地域密着型作品、参加型作品など、バラエティに富んだラインアップで東京の初秋から冬を盛り上げます。

The goal of this urban multidisciplinary arts festival is to be a venue of exchange and participation for fostering new values while spreading Tokyo's art culture and its appeal throughout Japan and across the globe. From early autumn to winter, four enterprises — Festival/Tokyo 2016, Tokyo Metropolitan Theatre Autumn Selection, TOSHIMA International City of Arts & Culture Program, and Asian Performing Arts Forum — will gather in Ikebukuro, Tokyo, and brighten the city with a diverse lineup of programs ranging from pioneering performances, area-based works and participatory productions.



「Woodcutters—伐採—」 Woodcutters Photo: Natalia Kabanov



「三代目、りちゃあど」 Richard Sandaime Photo: Jun Ishikawa



「山代大田楽」より Image from the "Yamashiro Daidengaku" Photo: Kumi Akasaka

PROGRAM 1

10.15 (SAT) – 12.11 (SUN)

### フェスティバル/トーキョー16 Festival/Tokyo 2016

ヨーロッパ現代演劇界の巨匠クリスチャン・ルパが初来日、代表作『Woodcutters—伐採—』を上演するほか、「プロジェクト FUKUSHIMA!」による市民参加型イベントなど、多彩なプログラムが展開されます。

The program will include Krystian Lupa, a giant of contemporary European theater, who will be presenting his masterpiece *Woodcutters* in his first-ever performance in Japan, and an assortment of other programs, including participatory events hosted by "Project FUKUSHIMA!"

PROGRAM 2

9.30 (FRI) – 12.4 (SUN)

### 芸劇オータムセレクション

#### Tokyo Metropolitan Theatre Autumn Selection

国内外のダンスや演劇作品など、4演目を上演。野田秀樹芸術監督が1990年に自身の劇団「夢の遊眠社」のために書き下ろした『三代目、りちゃあど』をシンガポールの演出家、オン・ケンセンが手がけるなど、話題作が目白押し。

The Tokyo Metropolitan Theatre will feature four programs including national and international dances as well as theatrical productions. The event will be packed with thought-provoking works such as *Richard Sandaime*, written by artistic director Hideki Noda in 1990 for his own troupe, "Yume no Yuminsha", and directed by Singapore director Ong Keng Sen.

PROGRAM 3

9.1 (THU) – 12.18 (SUN)

### としま国際アート・カルチャー都市発信プログラム TOSHIMA International City of Arts & Culture Program

注目は平安時代に流行した芸能・田楽をベースに、狂言師の野村万蔵が演出する『大田楽 いけぶくろ絵巻』。プロの実演家と市民参加者の総勢100名が出演し、圧巻のパフォーマンスを見せます。

This program will feature *Daidengaku Ikebukuro Emaki* under the direction of *kyogen* artist Manzo Nomura, based on *dengaku* — a musical dance art that was extremely popular during the Heian period. A total of 100 people will participate, consisting of professional performers and citizens, all working together to put on a performance to remember.

PROGRAM 4

11.18 (FRI) – 21 (MON)

### アジア舞台芸術人材育成部門 Asian Performing Arts Forum

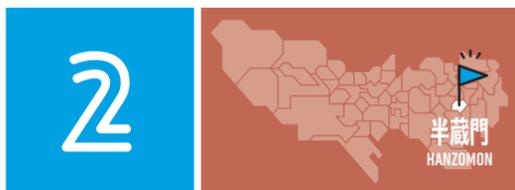
アジアの若い演劇人同士が共同制作を行う場として始まった「アジア舞台芸術祭」が東京芸術祭の人材育成プログラムとしてバージョンアップ。東京の舞台芸術の魅力を感じてもらい、グローバルなプラットフォームを目指します。

The Asian Performing Arts Festival, originally set up as a place for young Asian theater people to meet and produce shows together, has grown into a Tokyo Metropolitan Festival program for fostering talent. The Forum aims to create a global platform through experiencing Tokyo's performing arts appeal.

東京  
芸術祭  
2016  
TOKYO  
METROPOLITAN  
FESTIVAL

開催時間/プログラムにより異なる 会場/東京芸術劇場、あうるすぽっと(豊島区立舞台芸術交流センター)、にしすがも創造舎、池袋西口公園(ほか)  
入場料/プログラムにより異なる TEL/03-6388-0119(東京芸術祭組織委員会事務局) URL/www.tokyo-metropolitan-festival.jp

Time: Varies by program Venues: Tokyo Metropolitan Theatre, Owlspot Theater, Nishi-Sugamo Arts Factory, Ikebukuro Nishiguchi Park, and others  
Admission: Varies by program TEL: 03-6388-0119 (Tokyo Metropolitan Festival Organizing Committee Office) URL: www.tokyo-metropolitan-festival.jp/en



# 大江戸寄席と花街のおどり その六

脈々と受け継がれてきた伝統芸能を堪能

## Oedo Vaudeville Show and Traditional Geisha Dances VI

Revel in traditional performing arts that have been passed down through the generations.



江戸の町人文化の隆盛の中で花開いた落語や寄席芸と、花柳界に伝わる芸能を一度に楽しむことができる伝統芸能のエンターテインメント公演。第一部「大江戸寄席」は、大劇場の大舞台を華やかに彩る太神楽、人気の女流講師・神田陽子による講談、トリは品格のある大真打ちと大評判の柳家さん喬の落語。第二部の「花街のおどり」では、神田陽子がお案内役を務め、踊りやお座敷遊びについてのガイドを織り交ぜながら、新橋、赤坂、浅草、神楽坂、芳町、向島の東京六花街の芸者衆の踊りと演奏や悠玄亭玉八による翳間芸を披露します。

Enjoy an afternoon of performing arts entertainment showcasing *rakugo* and vaudeville shows, both popular forms of entertainment during the thriving culture of the townspeople of Edo, together with traditional performances passed down from the world of the geisha. Part 1 features the "Oedo Vaudeville Show," presenting a *daikagura* performance adorning a large stage in a magnificent theater, followed by storytelling by popular storyteller Kanda Yoko, and culminating with a *rakugo* performance by the dignified, famous, and wildly popular entertainer, Yanagiya Sankyo. In Part 2 "Traditional Geisha Dances," Kanda Yoko guides the audience through various dances performed by geisha from Tokyo's six entertainment districts — Shinbashi, Akasaka, Asakusa, Kagurazaka, Yoshicho and Mukojima. A performance by *hokan*, a male entertainer, and some *ozashiki asobi* (games played with geisha) will also be featured. English subtitles and earphone guides will be provided.

上演時間/14:30開場、15:00開演 会場/国立劇場 大劇場 チケット料金/前売終了、当日3階席(一般1,000円、学生500円)の販売あり  
TEL/03-6847-3707(「大江戸寄席と花街のおどり その六」事務局) URL/www.tokyo-tradition.jp/program/p01\_01.php

Time: 14:30 open, 15:00 start Venue: National Theatre (Large Theatre) Tickets: Advance tickets sold out. Same-day tickets available for 3rd-floor seats (Adults: 1,000 yen, Students: 500 yen)  
TEL: 03-6847-3707 (Oedo Vaudeville Show and Traditional Geisha Dances VI Office) URL: www.tokyo-tradition.jp/en/program/p01\_01.php



# 東京大茶会2016

茶道を通じて知る、日本人のおもてなしの心

## Tokyo Grand Tea Ceremony 2016

Experience Japanese hospitality through the art of tea ceremony

9.24 (SAT)・25 (SUN) / 10.15 (SAT)・16 (SUN)

茶道に親しむことで、日本の伝統文化とその根底にある「和の心」を体感できるイベント。茶道に馴染みのない人や外国人でも気軽にお茶の文化に触れることができます。会場は江戸時代から昭和初期までの文化的価値の高い歴史的建造物を展示する江戸東京たても園、江戸時代から受け継がれてきた歴史的名庭園である浜離宮恩賜庭園の2か所。本格的な茶会を体験できる「茶席」のほか、「野点」や初心者向けの茶道教室「茶道はじめて体験」をはじめ、様々なイベントが行われます。

Try your hand at *sado* — Japan's traditional tea ceremony — and experience not only traditional Japanese culture, but the spirit of harmony that lies at its core. This is a great opportunity for foreigners and those unfamiliar with the tea ceremony to casually experience the culture of tea. This event will be held at two venues: the Edo-Tokyo Open Air Architectural Museum, which exhibits historical buildings from the Edo Period to the early Showa era that have high cultural values, and Hama-rikyu Gardens, a historically famous garden that has been maintained since the Edo Period. In addition to the conventional Tea Ceremony, which allows participants to experience an authentic tea party, Outdoor Tea Ceremony, and Tea Ceremony for Beginners, many other events will be held.

初めてのお茶、  
ワクワク  
This is my  
first-time tea  
ceremony!



TEL / 03-3533-8199 (平日10:00~18:00) (東京大茶会事務局)

URL / tokyo-grand-tea-ceremony.jp

TEL: 03-3533-8199 [weekdays, 10:00-18:00] (Tokyo Grand Tea Ceremony Office)

URL: tokyo-grand-tea-ceremony.jp/eng

### 場所 Venues

#### 江戸東京たても園 (a)

開催日時 / 9月24日(土)・25日(日) 10:00~17:10 (受付9:30~16:30) 開催当日は入園無料

#### Edo-Tokyo Open Air Architectural Museum (a)

Date/Time: September 24 (Sat.) and 25 (Sun.) 10:00-17:10 (Reception: 9:30-16:30) Free admission to museum on the two days

#### 浜離宮恩賜庭園 (b)

開催日時 / 10月15日(土)・16日(日) 9:30~16:10 (受付9:00~15:40) 要入園料

#### Hama-rikyu Gardens (b)

Date/Time: October 15 (Sat.) and 16 (Sun.) 9:30-16:10 (Reception: 9:00-15:40) Admission fee to gardens charged separately

### イベント Events

#### 茶席 (a) (b)

園内の風情ある空間で行う本格的な茶席  
700円 / 事前申込制・受付終了(当日キャンセル待ち受付あり)

#### Tea Ceremony (a) (b)

Experience an authentic tea ceremony in the historical atmosphere.  
700 yen / Reservation closed (Stand-by tickets available in the event of cancellations)

#### 野点 (a) (b)

爽やかな秋の空の下で気軽に楽しむ野点  
300円 / (b)は煎茶席あり

#### Outdoor Tea Ceremony (a) (b)

Enjoy the casual tea ceremony under the crisp autumn sky.  
300 yen / A *sencha* ceremony will be held at (b).

#### 茶道はじめて体験 (a) (b)

初心者や外国人のための茶道教室  
300円 / 英語の解説付き

#### Tea Ceremony for Beginners (a) (b)

This tea ceremony workshop caters to foreigners and those uninitiated in the Way of Tea.  
300 yen / English interpretation available

#### WELCOME!

#### 英語で楽しむ茶席 (a)

英語の解説付きで日本の心に触れる茶席  
700円

#### Tea Ceremony in English (a)

Touch the hearts of the Japanese through tea ceremony.  
700 yen / English interpretation available

#### 子供のための茶道教室 (a)

楽しく作法を学ぶ茶道教室  
200円 / 小学生以下4歳児以上

#### Tea Ceremony Workshop for Children (a)

Learning tea ceremony etiquette.  
200 yen / Open to children aged 4 through elementary school

#### WELCOME!

#### 英語で楽しむ野点 (b)

英語の解説付きで気軽に楽しむ野点  
300円

#### Outdoor Tea Ceremony in English (b)

Drop by and experience an outdoor tea ceremony.  
300 yen / English interpretation available

#### 高校生野点 (b)

都内高等学校の茶道部による野点  
300円

#### Outdoor Tea Ceremony by high school students (b)

High school students will perform an outdoor tea ceremony.  
300 yen

#### 同日開催イベント (a)

#### Music Program TOKYO

#### まちなかコンサート ~芸術の秋、音楽さんぽ~

「子宝湯」を舞台に、東京音楽コンクール入賞者をはじめとするメンバーによる無料コンサートを開催します。

#### Event in the same day (a)

#### Music Program TOKYO

#### Machinaka Concert - Autumn in Art, Walking of Music

Winners of the Tokyo Music Competition and other top young performers will hold a free concert at a public bathhouse, Kodakara-ya.

#### 同日開催イベント (b)

#### 外国人向け伝統文化体験プログラム

外国人を対象に、華道や東京くみひも、着物着付けなど、英語逐次通訳による体験型プログラムを実施します。

#### Event in the same day (b)

#### Traditional culture experience programs for foreign visitors

We offer a number of cultural experience programs for foreigners such as flower arrangement called "Kado", Tokyo Kumihimo (braided cords), and dressing kimonos. All programs provide consecutive interpreters for English language support.



## Music Program TOKYO 小曾根 真&ゴンサロ・ルバルカバ “Jazz meets Classic” with 東京都交響楽団

国とジャンルを越えたふたりのピアニスト

## Music Program TOKYO Makoto Ozone & Gonzalo Rubalcaba “Jazz meets Classic” with Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra

Two pianists transcending nationalities and genres

10.1 (SAT)・2 (SUN)

クラシックとジャズの両分野で日本を代表するピアニスト、小曾根真とジャンルや国境を越えて活躍を続けるキューバ出身の天才ピアニスト、ゴンサロ・ルバルカバによる夢のステージが実現。第一部は、角田鋼亮の指揮による東京都交響楽団との共演。バルトーク作曲の『ルーマニア民俗舞曲』と『2台のピアノと打楽器のための協奏曲』を披露します。第二部では小曾根とルバルカバの両氏によるジャズ・セッションが繰り広げられ、ジャンルを超えた演奏を楽しむことができます。

Makoto Ozone, one of Japan's finest pianists in both jazz and classical styles, will light up the stage together with Gonzalo Rubalcaba, a piano prodigy from Cuba whose performances transcend genres and borders. In Part 1, Ozone and Rubalcaba will perform Bartok's *Romanian Folk Dances* and *Concerto for 2 Pianos, Percussion, and Orchestra* together with Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra and Kosuke Tsunoda (Conductor). Part 2 will feature a jazz session by Ozone and Rubalcaba, transcending genres to bring to listeners an incredible experience.



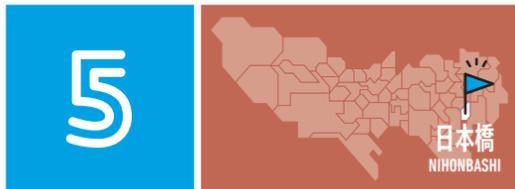
Photo: Satoshi Aoyagi

Photo: Yasuhisa Yoneda

上演日時・会場 / 10月1日(土) 16:20開場、17:00開演 東京文化会館 大ホール 10月2日(日) 14:20開場、15:00開演 オリナスホール八王子 チケット料金 / S席5,000円、A席4,000円、B席3,000円、25歳以下1,000円 (※要証明書)  
TEL / 03-5685-0650 (東京文化会館 チケットサービス) URL / www.artscouncil-tokyo.jp/ja/events/11844

Time/Venues: October 1 (Sat.): 16:20 open, 17:00 start at Tokyo Bunka Kaikan Main Hall October 2 (Sun): 14:20 open, 15:00 start at Olympus Hall Hachioji

Tickets: 5,000 yen (S seats), 4,000 yen (A seats), 3,000 yen (B seats), 1,000 yen (25 or younger) \*Proof of age required TEL: 03-5685-0650 (Tokyo Bunka Kaikan Box Office) URL: www.artscouncil-tokyo.jp/en/events/11844



# 日本橋 熙代祭 江戸あそび ~伝統文化フェスティバル~

伝統文化に触れ、感動を未来につなぐ

## Nihonbashi Kidai-Matsuri Edo Asobi – Traditional Culture Festival

Experiencing traditional culture and connecting that emotion to the future

10.7 (FRI) – 9 (SUN)

江戸の文化の発信地である日本橋を舞台に、伝統文化の魅力を発信し、馴染みのない人々も気軽に親しめる伝統文化のフェスティバルです。伝統文化に触れてもらうための様々な体験ブースをはじめ、福徳の森に出現する特設ステージでは、箏、三味線、和太鼓といった数々のセッションを実施。最終日には日本橋三井ホールにて藤間勘十郎などが出演する日本舞踊と狂言、邦楽をかけた合わせた伝統芸能公演を行います。

Held in Nihonbashi, the source of Edo culture, this festival will increase awareness of the beauty and appeal of traditional culture. Even people unfamiliar with traditional culture can enjoy the festival in a lighthearted way. Activity booths will offer chances to experience traditional culture, and a variety of sessions including koto, shamisen and taiko will be performed on the specially built stage in FUKUTOKU GARDEN. On the final day, a traditional performing arts program of *Nihon buyo* (traditional Japanese dance), *Kyogen* and *Hogaku* (traditional Japanese music) featuring artists such as Kanjuro Fujima will be held at Nihonbashi Mitsui Hall.



伝統芸能公演イメージ Image of traditional performing arts program



伝統文化体験イメージ Image of traditional culture experience program Photo: Jouji Suzuki



福徳の森特設ステージイメージ  
Image of FUKUTOKU GARDEN special stage

日本っていいね  
Isn't Japan cool?



開催時間/プログラムにより異なる 会場/日本橋エリア(コレド室町、福徳の森特設ステージ、日本橋三井ホールほか) 入場料/無料(一部有料)

TEL / 03-3242-0010 (10:00~21:00) <日本橋 熙代祭事務局 日本橋案内所> URL / www.artscouncil-tokyo.jp/ja/events/14141

Time: Varies by program Venues: Nihonbashi area (COREDO Muromachi, FUKUTOKU GARDEN special stage, Nihonbashi Mitsui Hall, etc.)

Admission: Free (Admission fee for some programs) TEL: 03-3242-0010 [10:00-21:00] (Nihonbashi Kidai-Matsuri Office, Nihonbashi Information Center) URL: www.artscouncil-tokyo.jp/en/events/14141



# TERATOTERA祭り2016 -involve- 価値観の異なる他者と共に生きる術

3日間限り! 作品すべてが来場者参加型のアートの祭典

## TERATOTERA Festival 2016 -involve- The art of living with people who have different values

For three days only! An art festival where people can get "involved" in all the works of art

10.8 (SAT) – 10 (MON)

TERATOTERA祭りは、街なかでのアート展をはじめ、音楽ライブやパフォーマンスなどを盛り込んだ大規模展覧会です。2011年度から始まり6度目となる今回は、10月8日、9日、10日の3日間、三鷹駅周辺の空き店舗など5か所以上を舞台に開催します。今年度のテーマは「involve」。現代美術の分野で活躍するアーティストたちが、来場者参加型の新作を発表します。「楽しかった」だけでは終わらない、TERATOTERAならではの作品体験をぜひお楽しみください。

The TERATOTERA Festival, which began in 2011, is a large-scale, area-wide art event packed with art exhibitions, live concerts and performances, and more. This year's festival, its sixth edition, will take place over the three-day period of August 8-10 in vacant stores and other spaces (more than five locations in all) in the area around Mitaka Station. This year's theme is "involve." Artists active in the field of contemporary art will unveil their new participation-style works. There's more to the unique TERATOTERA artwork experience than simply "That was fun." Don't miss it.



Photo: Hako Hosokawa

開催時間/プログラムにより異なる 会場/三鷹駅周辺 入場料/無料(一部有料)

TEL / 090-4737-4798 (TERATOTERA事務局) URL / www.artscouncil-tokyo.jp/ja/events/14246

Time: Varies by program Venue: Around Mitaka Station Admission: Free (Admission fee for some programs)

TEL: 090-4737-4798 (TERATOTERA Office) URL: www.artscouncil-tokyo.jp/en/events/14246



# アートアクセスあだち 音まち千住の縁 大巻伸嗣「Memorial Rebirth 千住 2016 青葉」

無数のシャボン玉がいつもの景色を変える

## Art Access Adachi: Downtown Senju - Connecting through Sound Art Shinji Ohmaki "Memorial Rebirth Senju 2016 Aoba"

A profusion of bubbles that changes your everyday scenes

10.9 (SUN)

アーティストの大巻伸嗣による、無数のシャボン玉で見慣れた景色を変貌させるアートパフォーマンス「Memorial Rebirth」。千住で6年目を迎える今回は、中学校を舞台に昼と夜の二部制で開催します。浮遊するシャボン玉の光の粒は、その土地の忘れられた記憶をよみがえらせます。その光景はきっと、忘れられない新たな思い出として刻まれるでしょう。ほかにも、オリジナルの盆踊り「しゃぼんおどり」をみんなで踊ったりと、子供も大人も楽しめるお祭りとなっています。

In the art performance "Memorial Rebirth," familiar places are transformed by artist Shinji Ohmaki's infinite soap bubbles. This time, in its sixth year in Senju, the event will be held at a junior high school in two sessions — daytime and evening. The floating soap-bubble beads of light will awaken the area's forgotten memories, and the magical scene is sure to become a new and lasting memory for those who witness it. Also featuring an original "Shabon Odori" Bon festival dance that everyone takes part in, this is an enjoyable festival for children and grownups alike.



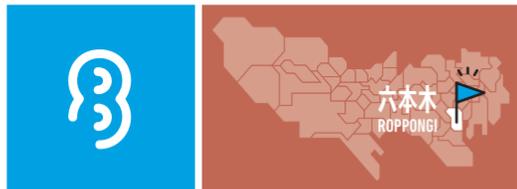
「Memorial Rebirth 千住 2013 常東」 「Memorial Rebirth Senju 2013 Joto」  
Photo: Yukitaka Amemiya

開催時間/昼の部 15:00~、夜の部 18:00~ (各回30分程度) 会場/足立区立千寿青葉中学校 入場料/無料

TEL / 03-6806-1740 (13:00~18:00、火・木曜除く) URL / aaa-senju.com/ohmaki

Time: Daytime session 15:00 / Evening session 18:00 (Each approx. 30 min) Venue: Adachi Senju Aoba Junior High School

Admission: Free TEL: 03-6806-1740 (13:00-18:00 except Tuesday and Thursday) URL: www.artscouncil-tokyo.jp/en/events/14270



# 六本木アートナイト2016

六本木がアートの遊び場になる3日間

## Roppongi Art Night 2016

For three days, Roppongi is transformed into a playground of art

10.21 (FRI) – 23 (SUN)

現代アートやデザイン、音楽、映像、パフォーマンスなどの多様な作品群を六本木の街に点在させ、非日常的な体験ができるアートの祭典。7回目を迎える今回は、1日延長した3日間の開催に。テーマは「六本木、アートのプレイグラウンド〜回る、走る、やってみる。〜」。メインプログラムのアーティストに現代美術家の名和晃平を迎え、六本木の街を舞台にした作品にも期待大。注目はフランスのパフォーマンスグループ「カンパニー・デ・キダム」の新作『誇り高き馬』の屋外公演。観客を幻想的な世界へと引き込みます。

In this art festival, various works from the fields of contemporary art and design, music, video art, performance and more are placed in various locations around the Roppongi district, providing visitors with extraordinary experiences. The theme of this 7th edition of Roppongi Art Night, which will be held for three days this year, is "Roppongi, Art Playground: Explore, run around, go for it!" Contemporary artist Kohei Nawa will be the main program artist, and the works to be presented in the Roppongi area are eagerly anticipated. An event receiving special attention is the outdoor performance of *FierS à Cheval*, a new production by the French performance group "Compagnie des Quidams." The audience will be drawn into a magical world.

開催時間/プログラムにより異なる 会場/六本木ヒルズ、森美術館、東京ミッドタウン、サントリー美術館、21\_21 DESIGN SIGHT、国立新美術館、六本木商店街、その他六本木地区の協力施設や公共スペース 入場料/無料 (ただし、一部のプログラム及び美術館企画展は有料)

TEL / 03-5777-8600 (ハローダイヤル) URL / www.roppongiartnight.com

Time: Varies by program Venues: Roppongi Hills, Mori Art Museum, Tokyo Midtown, Suntory Museum of Art, 21\_21 DESIGN SIGHT, The National Art Center, Tokyo; Roppongi shopping streets, and other collaborating facilities as well as public spaces in the Roppongi area

Admission: Free (Some of the programs and exhibitions will be charged.) TEL: 03-5777-8600 (Hello Dial) URL: www.roppongiartnight.com

いつもと違う  
夜の街  
A different-from-usual  
atmosphere in the  
nighttime city streets



Photo: Marc Van Canneyt



## 東京キャラバン

「文化大サーカス」がやってくる

### TOKYO Caravan

The "Grand Cultural Circus" is coming

10.21 (FRI) - 22 (SAT)



劇作家・演出家・役者である野田秀樹の発案により、多種多様なアーティストが出会い「文化混流」することで、新しい表現が生まれるというコンセプトを掲げた新たな文化ムーブメント。2016年夏、オリンピック開催に湧くりオデジャネイロで、才能溢れる様々なジャンルの日本人のアーティストが、現地のアーティストと出会い、国境、言語、文化や、それぞれのジャンルを超えた文化混流ワークショップを行い、創作しました。そして、福島と宮城で創作ワークショップを行い、その出会いから創出された文化サーカスを六本木アートナイトのメインステージで繰り広げます。

Conceived by playwright/director/actor Hideki Noda, this is a new cultural movement based on the concept of engendering new forms of expression through the mingling of cultures brought about by encounters between a diverse array of artists. In the summer of 2016, during the Olympic Games, talented Japanese artists from a variety of genres had encountered local artists in Rio de Janeiro, holding culture "inter-mixture" workshops and creating works that transcend national borders, languages, cultures, and their respective genres. Next, they held creative workshops in Fukushima and Miyagi; and they will present the cultural circus produced through those encounters on the main stage of Roppongi Art Night.

開催時間/決定次第、公式ウェブサイトで発表します。会場/六本木ヒルズアリーナ 入場料/無料

TEL / 03-6256-8435 (アーツカウンシル東京事業調整課) URL / www.artscouncil-tokyo.jp/ja/events/14275

More information on times will be posted on the official website. Venue: Roppongi Hills Arena Admission: Free TEL: 03-6256-8435 (Arts Council Tokyo) URL: www.artscouncil-tokyo.jp/en/events/14275



## TURN in BRAZIL

ブラジルでの交流から生まれた作品展

An art exhibition born of an exchange program in Brazil

10.21 (FRI) – 23 (SUN)



異なる背景や習慣を持った様々な人々との出会い方、つながり方に創造性を携え動きかけていくアートプロジェクト「TURN」。2016年夏、日本とブラジルを拠点に活動するアーティストたちが江戸組紐などの伝統工芸を携えて、サンパウロに滞在しながら福祉施設に通い、その交流を通して生まれた作品をリオデジャネイロ2016オリンピック・パラリンピック競技大会時に現地で発表。ワークショップ等を行いました。本展では、現地での活動を報告します。

TURN is an art project which creatively promotes various encounters and connections among people of diverse backgrounds and customs. In the summer of 2016, artists based in Japan and Brazil resided in São Paulo and visited social welfare facilities there, bringing with them traditional crafts such as *Edo Kumihimo* (Tokyo-style braided cords). The art works produced through this exchange program were exhibited in Rio during the Rio de Janeiro 2016 Olympic and Paralympic Games. Workshops and other events were also held. In this exhibition, we will report on the programs carried out there.

開催時間/10月21日(金)・22日(土) 10:00~22:00 10月23日(日) 10:00~18:00

会場/国立新美術館企画展示室2E ※本展は、「ここから——アート・デザイン・障害を考える3日間」(文化庁主催)の一環として実施します。入場料/無料 TEL / 03-6256-8435 (アーツカウンシル東京 事業調整課)

URL / www.artscouncil-tokyo.jp/ja/events/14278

Time: October 21 (Fri.) and 22 (Sat.) 10:00-22:00 October 23 (Sun.) 10:00-18:00

Venue: The National Art Center, Tokyo, Exhibition Gallery 2E (2nd floor) \*This exhibition will be held as part of "First Steps toward Art, Design and Disability" (organized by Agency for Cultural Affairs Government of Japan).

Admission: Free TEL: 03-6256-8435 (Arts Council Tokyo) URL: www.artscouncil-tokyo.jp/en/events/14278



## 上野「文化の杜」《TOKYO数寄フェス》

国内外で活躍するアーティストの作品が上野に!

### Ueno, a Global Capital of Culture — TOKYO "Suki" Festival

Works by artists active in Japan and other countries are coming to Ueno!

10.21 (FRI) – 23 (SUN)

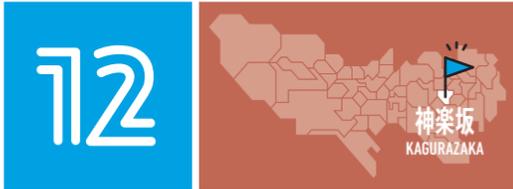
岡倉天心が、茶の湯の文化を紹介しながら世界に日本の芸術文化の精神を紹介した『茶の本』の思想をテーマとして、上野公園一帯を会場にアートイベントを開催。国内外で活躍する気鋭のアーティストたちが作品を展示するほか、会期中の金曜日と土曜日は国立西洋美術館や東京都美術館をはじめ、上野エリアの文化施設が夜8時まで開館。また、野外では夜でも楽しめる展示も。「数寄」という日本の伝統的な美意識を発信し、東京や日本が数寄(好き)になる3日間です。

This art event is based on the ideas presented in *The Book of Tea*, in which Tenshin Okakura explained the tea ceremony culture, and at the same time introduced the spirit of Japanese culture and arts to the rest of the world. The venue is the entire Ueno Park area. Energetic artists working in Japan and other countries will exhibit their works; and on the Friday and Saturday of the festival, the cultural facilities in the Ueno area such as The National Museum of Western Art, Tokyo and Tokyo Metropolitan Art Museum will be open until 8:00 p.m. and exhibits can be viewed outdoors at night as well as in the daytime. In this three-day event, visitors will gain a better understanding of the traditional Japanese sense of beauty called "suki," as well as a greater "love" ("suki") of Tokyo and Japan.



開催時間/プログラムにより異なる 会場/上野公園一帯 入場料/無料 TEL / 03-5834-2396 (上野「文化の杜」新構想実行委員会(事務局)) URL / ueno-bunka.jp

Time: Varies by program Venue: Ueno Park area Admission: Free TEL: 03-5834-2396 (Office of Implementation Committee for New Concept "Ueno, a Global Capital of Culture") URL: ueno-bunka.jp/en



11.12 (SAT) - 13 (SUN)

## 神楽坂まち舞台・大江戸めぐり2016

神楽坂の街角でふと出合う、日本の伝統文化

### Kagurazaka Street Stage 0-Edo Tour 2016 (Japanese Traditional Culture Festival)

Find traditional Japanese culture on Kagurazaka's street corners

神楽坂の街を舞台に、誰もが気軽に日本の伝統芸能に触れることができるイベント。毘沙門天善國寺境内の楽座では、江戸時代の講釈場を再現し、語り芸が披露されるほか、神楽坂のメインストリートでの路上パフォーマンス、神楽坂芸者衆の稽古場でのお座敷遊び体験、古典芸能を味わう赤城神社神楽殿でのライブなどを実施。前夜祭では神楽坂の飲食店で神楽坂にゆかりのある古典芸能実演家による伝統芸能ミニライブも。味わい深い文化を生み出してきた神楽坂ならではの夜も楽しむことができます。

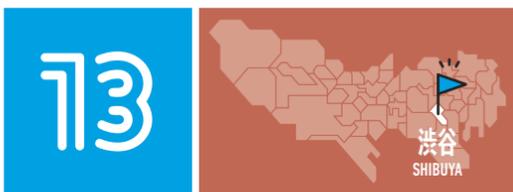
An event where anyone can freely engage with traditional Japanese arts on the streets of Kagurazaka. See reconstructions of Edo period storytelling and storytelling performances at the special stage Rakuza of Bishamonten Zenkokuji Temple, as well as street performances on Kagurazaka's main street. Experience Ozashiki-Asobi in the training hall for Kagurazaka's geisha performers and taste live classical theater at a performance at Akagi shrine Kagura-den. At the Festival Eve, there will also be mini-performances by traditional entertainers connected with Kagurazaka at various eating establishments in Kagurazaka. You can enjoy an evening characteristic of Kagurazaka, which gave birth to profound culture.



開催時間 / [前夜祭] 11月12日(土) 15:00~19:30 [本祭] 11月13日(日) 11:30~18:00 会場 / 神楽坂エリア一帯 (毘沙門天善國寺、赤城神社、東京神楽坂組合・見番、神楽坂通りエリア内路上、歴史的名所旧跡ほか)

TEL / 03-5478-8265 (神楽坂まち舞台・大江戸めぐり2016事務局 (古典空間内)) URL / kaguramachi.jp

Time: [Festival Eve] November 12 (Sat.) 15:00-19:30 [Main Festival] November 13 (Sun.) 11:30-18:00 Venues: Kagurazaka area (The Bishamonten Zenkokuji Temple, Akagi Shrine, Tokyo Kagurazaka Association "Kenban", Kagurazaka Street and other streets / alleys, historic and scenic sites and others) TEL: 03-5478-8265 (Kagurazaka Street Stage 0-Edo Tour 2016 Office [inside Koten Kukan Office]) URL: kaguramachi.jp/en



11.19 (SAT) - 20 (SUN)

## Shibuya StreetDance Week 2016

表現者と鑑賞者、舞台をつなぐダンスの祭典

A dance festival that connects performers, viewers, and the stage

世界中から注目を集めるストリートダンスを国内外に発信する国内最大規模のストリートダンスの祭典を今年も開催。代々木公園や渋谷区内の商業施設など、渋谷エリアがダンスのステージに。プロダンサーによる圧巻のパフォーマンス、高校生ダンス部によるチーム型のストリートダンス選手権「SSDW CONTEST」や誰もが無料でレッスンを受けることができる青空ダンス教室、ストリートダンスと渋谷の街をキーワードにしたトークショーなど、「鑑賞・参加・対話」の3つのプログラムが展開されます。

Once again, we will hold one of the largest national street dance festival, which plays host to street dance popular abroad and at home, and is transmitted all over the world. From Yoyogi Park to various business establishments in Shibuya area, Shibuya will be turned into a dance stage. The program will cover "viewing, participating, and conversation," and will include highlight performances by professional dancers, the "SSDW Contest" championship group dance from a high school dance group and an open-air free lesson open to everyone, and a talk show that takes street dance and Shibuya as its keywords, among others.



Photo: HAMA SHOW



Photo: HAMA SHOW



Photo: HAMA SHOW

開催時間 / プログラムにより異なる 会場 / 代々木公園 (野外ステージ、けやき並木、イベント広場)、渋谷区内商業施設 ほか

入場料・参加費 / 無料 TEL / 03-6450-3670 (平日 10:00~17:00) (Shibuya StreetDance Week事務局 (ファイブメディット株式会社内)) URL / www.streetdanceweek.jp

Time: Varies by program Venues: Yoyogi Park (at the Outdoor Stage, the Keyaki Promenade, the Event Field), business establishments in Shibuya area, and others

Admission/Participation Fee: Free TEL: 03-6450-3670 [Weekdays, 10:00-17:00] (Shibuya StreetDance Week Office [inside 5MEDIT Office]) URL: www.streetdanceweek.jp



# TOKYO SHINTORA MATSURI (東京新虎まつり)

東北と日本の今をたっぷり感じる2日間

Two days to completely experience Tohoku and Japan

11.19 (SAT) - 20 (SUN)



国際新都心としての街づくりが加速する新橋・虎ノ門エリア。その新橋と虎ノ門を結ぶ目抜き通り(新虎通り)を活用した初の大規模イベントを開催。「東北×東京」と「伝統×革新」をテーマに、東北六市の祭りを披露する「東北六魂祭パレード」、東京の伝統芸能と東北の祭り装飾の披露・展示や東京と東北の観光情報や食文化を紹介する「東北×東京プログラム(仮称)」、日本のゲーム・アニメ・音楽などの最前線に関するトークセッション「日本文化フォーラム(仮称)」などを通して、東日本大震災から立ち上がった東北の姿と日本の文化を発信します。

The Shinbashi/Toranomon area is an international neo-city center that contributes to the acceleration of urban development. We will host the first large-scale event that uses the main road that connects Shinbashi and Toranomon (Shintora-dori Avenue). Taking "Tohoku x Tokyo" and "Tradition x Innovation" as themes, the event will present various Japanese culture and the Tohoku spirit, arisen from the Great East Japan Earthquake and tsunami via the "Tohoku Rokkonsai Parade," a festival that presents distinctive features of festivals held in six cities in Tohoku, the "Tohoku x Tokyo Program (tentative name)," exhibits and performances of traditional Tokyo arts and Tohoku festival ornaments, as well as introduction of food and tourism information about Tokyo and Tohoku, and the "Japan Culture Forum (tentative name)," a talk show about the frontline of Japanese games, anime, and music, among others.



青森ねぶた祭 蝦夷ヶ島 夷酋と九郎義経 (制作: 竹浪比呂央)  
Aomori Nebuta Matsuri (Nebuta Festival)  
Ezogashima Ishu vs Kuroou Yoshitsune Produced by Hiroo Takenami



秋田竿燈まつり  
Akiita Kanto Festival



盛岡さんざ踊り  
Morioka Sansa Odori (Sansa Dance)



山形花笠まつり  
Yamagata Hanagasa Matsuri (Flower Hat Dance Festival)



仙台七夕まつり (パレード: 仙台すずめ踊り)  
Sendai Tanabata Festival (Parade: Sendai Suzume Odori)



福島わらじまつり  
Fukushima Waraji Matsuri (Straw Sandal Festival)

## TOKYO SHINTORA MATSURI

東京 新虎まつり

開催時間/プログラムにより異なる

会場/虎ノ門ヒルズ、新虎通り(11月20日のみ)、港区立南桜公園(11月20日のみ)

入場料/無料(一部有料) TEL/03-6256-8433(アーツカウンシル東京企画助成課) URL/www.shintora.tokyo  
※パレードの観覧等は事前申込制です。お申し込み方法については、公式ウェブサイトをご覧ください。

Time: Varies by program

Venues: Toranomon Hills, Shintora-dori Avenue (November 20), Minato Municipal Nan'o Park (November 20)

Admission: Free (Admission free for some programs) TEL: 03-6256-8433 (Arts Council Tokyo) URL: www.shintora.tokyo

\*Prior application required for the parade viewing. Please refer to the official website for how to apply.



# 伝承のたまてばこ ~多摩伝統文化フェスティバル2016~

地域に根ざした伝統文化に触れるチャンス

## Legendary Tamatebako (Treasure Box) - Tama Traditional Culture Festival 2016

A chance to experience traditional culture rooted in local areas

11.26 (SAT) - 27 (SUN)

八王子の街なかを舞台に、八王子・多摩地域に伝わる伝統文化・芸能の魅力を伝えるイベントを今年初めて開催します。八王子駅周辺での祭囃子や八王子芸妓衆の踊りと箏曲ライブのほか、八幡八雲神社神楽殿や横山町公園では江戸時代を起源とする八王子車人形の公演を実施します。さらには、明治から昭和初期まで八王子で大衆娯楽として演じられていた「写し絵」に欠かせない道具である「種板」の制作、染物工場での染物体験といったワークショップも開催。受け継がれてきた文化に触れることで街の歴史に思いを馳せ、未来へとつないでいきませんか?

We're hosting an event for the first time that communicates the charm of the traditional culture and art local to Hachioji and Tama areas, right in the heart of Hachioji. There will be matsuribayashi (festival music), dance performed by geishas in Hachioji and koto concerts near the Hachioji Station, as well as Hachioji Kurumangyo performances, originally developed in the Edo Period, at Hachimanyakumo Shrine Kaguraden and Yokoyamacho Park. Additionally, there will also be workshops on dying at dying factories and *taneita* (wooden negatives sheet), an essential piece of the *utsushi-e* (shadowgraph), a form of mass-entertainment performed at Hachioji area from the Meiji Period to the beginning of the Showa Period. Won't you try connecting with the future by experiencing memories of local history through culture passed down through generations?



開催時間/プログラムにより異なる 会場/JR八王子駅北口周辺(西放射線ユーロード、八幡八雲神社ほか) TEL/042-621-3005(9:00~17:00)〈八王子市学園都市文化ふれあい財団内〉 URL/www.artscouncil-tokyo.jp/ja/events/13674

Time: Varies by program Venues: by the North Exit of the JR Hachioji Station (Nishi Houshasen U-Road, Hachimanyakumo Shrine, etc.)

TEL: 042-621-3005 (9:00-17:00) (inside Hachioji City College Community & Culture Fureai Foundation) URL: www.artscouncil-tokyo.jp/en/events/13674

## INFORMATION

# 芸術文化を盛り上げる新たな助成プログラムがスタート

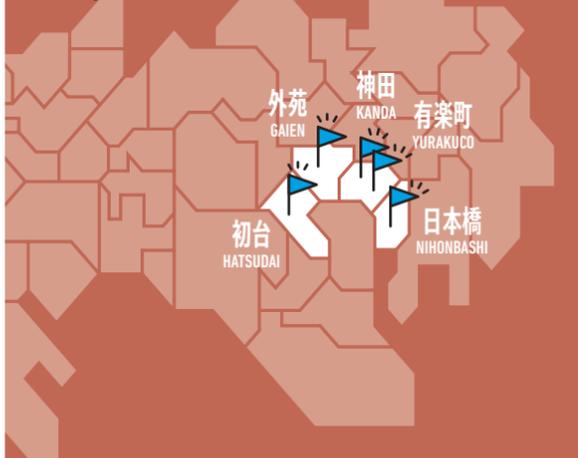
## A New Grant Program Supporting the Proliferations of Artistic Culture Begins

アーツカウンシル東京では、2020年に向けて芸術文化の力で東京を盛り上げていくこと、そして、東京都が行う文化プログラムをより広く知ってもらうことを目指して、新しく「東京文化プログラム助成」をスタートしました。今年度は、民間団体や企業などが実施する大型プロジェクトを支援します。

Arts Council Tokyo, with an eye towards 2020, aims to enliven Tokyo with cultural arts and increase the appeal of the cultural programs happening in Tokyo by creating the new Tokyo Cultural Program Grant Program. This fiscal year, it supports large projects undertaken by NGOs and companies, among others.

### 今年度、選ばれたのはこの5つ!

#### This year, these five were chosen!



## PROGRAM 1

### NIHONBASHI NIGHT PROGRAM SAKURA -JAPAN IN THE BOX-

伝統芸能×多ジャンルの複合エンターテインメント。

Traditional arts with multi-genre compound entertainment.



会期/9月19日(月・祝)~2017(平成29)年3月31日(金)

公演時間/20:30~(日によって19:00~)

会場/明治座 URL/sakura-meijiza.com

Dates: September 19 (Mon.)-March 31 (Fri.), 2017

Time: 20:30-(Some days 19:00-) Venue: Meijiza

URL: sakura-meijiza.com/en

## PROGRAM 2

### TRANS ARTS TOKYO 2016

店舗や空き地、空きビルなどに新しいアートの祝祭空間が出現。

A new festival space emerges, involving stores, open spaces, and empty buildings.



cocoten 2015 by coconogacco  
TRANS ARTS TOKYO 2015

会期/10月15日(土)~30日(日)

会場/五十通りエリア、一八通りエリア、東京電機大学跡地、ワテラス、アーツ千代田3331ほか URL/www.kanda-tat.com

Dates: October 15 (Sat.)-October 30 (Sun.)

Venues: Gotou St. area, Ichihachi St. area, Tokyo Denki University site, Waterras, 3331 Arts Chiyoda and others URL: www.kanda-tat.com

## PROGRAM 3

### TOKYO DESIGN WEEK 2016 -IMAGINE FUTURE

デザイン、アート、建築など様々なジャンルのクリエイティブの祭典。

A fair of various creative genres, including design, art, and architecture.



会期/10月26日(水)~31日(月)、11月2日(水)~7日(月)

開場時間/11:00~21:00 ※最終日は20:00まで

会場/明治神宮外苑絵画館前 URL/tokyodesignweek.jp

Dates: October 26 (Wed.)-October 31 (Mon.), November 2 (Wed.)-November 7 (Mon.) Time: 11:00-21:00 \*Last day will be until 20:00 Venues: In front of the Meiji Memorial Picture Gallery URL: tokyodesignweek.jp/en

## PROGRAM 4

### 第17回東京フィルメックス TOKYO FILMeX 2016

15年以上続く東京発の国際映画祭。アジアの新進作家の約10作品を上映。

The international film festival from Tokyo started more than 15 years ago. This year, screening ten works from Asia's rising filmmakers.



会期/11月19日(土)~27日(日)

会場/有楽町朝日ホール(有楽町マリオン)、TOHOシネマズ日劇ほか(予定) URL/filmex.net

Dates: November 19 (Sat.)-November 27 (Sun.)

Venues: Yurakucho Asahi Hall (Yurakucho Mullion), TOHO CINEMAS Nichigeki and others (planned) URL: filmex.net

## PROGRAM 5

### ミュージカル『わたしは真悟』 Musical My Name Is Shingo

楳図かずおの漫画『わたしは真悟』を日仏共同でミュージカル化。

A Japanese-French partnership turns Kazuo Umezu's manga, My Name Is Shingo, into a musical.



会期/2017(平成29)年1月8日(日)~26日(木) ※10日(火)、16日(月)、23日(月)は休演 公演時間/公演日によって異なる(13:00~、14:00~、17:30~、18:30~) 会場/新国立劇場 中劇場 URL/www.watashingo.com

Dates: January 8 (Sun.), 2017-January 26 (Thu.), 2017 \*No performances on January 10 (Tue.), 16 (Mon.), or 23 (Mon.) Time: Varies by performance day (13:00-, 14:00-, 17:30-, 18:30-) Venue: New National Theatre, Tokyo, Playhouse URL: www.watashingo.com

## ▶▶▶ MORE TRAINING 追加トレーニングはこちら!

## WEB MAGAZINE

独自のコンテンツや、うごくマンガも。

ウェブマガジン「TOKYO PAPER for Culture」を公開中! ウェブだけのコンテンツや、本紙に掲載されているマンガがうごくを見せるなど、盛りだくさんの内容です。ぜひアクセスしてみてください。

▶ paper.artscouncil-tokyo.jp

Original Content and Comic that Move

The online magazine edition of the TOKYO PAPER for Culture is also available with web-only content and moving versions of the comic carried in the print issue. There's a lot to see, so please check it out.

▶ paper.artscouncil-tokyo.jp/en

CHECK!

ウェブマガジンだけ

Web-only Content

### 往復書簡

東京を舞台に、日々の想いを交換するふたり

### Round-trip Letters

Two people exchange everyday thoughts about Tokyo.



今号のペアをいまずチェック!  
Please check it out who are exchanging letters!

CHECK!

マンガがうごく!

Comic that Move!

私の珍プレー好プレー

### 信濃八太郎

My Odd Plays and Fine Plays  
Hattaro Shinano



今号のペアをいまずチェック!  
Please check it out who are exchanging letters!



## RADIO

TOKYO FM WORLD

### TOKYO ART BLOOM

ウェブにて配信 istribution online

東京で暮らし、文化・芸術の分野で活躍する外国人の方に東京の魅力がうかがえます。アーツカウンシル東京が展開するプログラムの情報をお届けします。

In this program people from overseas who live in Tokyo and are active in the arts and culture scene talk about what they like about the city. It also introduces programs organized by Arts Council Tokyo.

www.tfm.co.jp/tfmworld

J-WAVE (81.3FM)

### ARTS COUNCIL TOKYO CREATIVE FILE

毎週土曜日11:35~11:45(ワイド番組「RADIO DONUTS」内)  
Saturdays, 11:35-11:45 (A segment of the "RADIO DONUTS" show)

東京で「暮らす」「働く」「学ぶ」など、東京につながりをもつすべての人のための番組。アーツカウンシル東京のプログラムや東京文化の創造について紹介します。

This program is for everyone with a connection to Tokyo, whether they live here, work here, or study here, introducing Arts Council Tokyo programs and exploring the creation of Tokyo's culture.

www.j-wave.co.jp/original/creativefile

トレーニング後の、一杯 After training, it's time for a drink.

芸術の秋、食欲の秋、スポーツの秋。  
思いのほか、忙しいぞ秋(笑)。

Autumn is the season for appreciating art, the season for eating delicious food, the season for watching and playing sports. Autumn is the season for being amazingly busy. (Laugh)



「RADIO DONUTS」ナビゲーター  
渡辺 祐  
Navigator of Radio Donuts  
Tasuku Watanabe

# 東京記録

## TOKYO RECORDS



様々なデータから、東京を再発見する「東京記録」。東京は、どんな街でしょうか？音楽を聴いて感じる街の姿は、ときに自分の心情とフィットするものです。そこで今回私たちがリサーチしたのは、ずばり音楽。タイトルに「東京」が含まれた楽曲を調べてみると、総曲数はなんと4,827曲もありました。さらに、その曲数が多いアーティストをランキング形式で記録。いったいどんなアーティストが東京を歌っているのでしょうか。楽曲に描かれたそれぞれのストーリーや情景は、この街のいろいろな顔を示してくれます。

Tokyo Records profiles Tokyo through facts and figures. What kind of city is Tokyo? Sometimes, the image of a city evoked in music sums up your own feelings perfectly. That's why we decided to research music for this issue. Our investigation revealed that an astonishing 4,827 songs have the word "Tokyo" in their title. We've also compiled a ranking of the artists who account for the largest number of those songs. What kind of artists sing about Tokyo? The stories and scenes depicted in these songs show us this city's many faces.

RECORD NO.  
**002**

楽曲のタイトル  
The Title of Songs



**1**位

フランク永井  
Frank Nagai



**34**曲 Songs

「東京午前二時」「東京ナイト・クラブ」「東京無情」「新東京小唄」「東京しくれ」など  
'Tokyo Gozen Sanji,' 'Tokyo Night Club,' 'Tokyo Mujo,'  
'Shin-Tokyo Kouta,' 'Tokyo Shigure,' etc.

【東京カチート／アーケード・ブルース】(1960年)  
Tokyo Cachito / Arcade Blues (1960)

写真提供：ビクターエンタテインメント

**2**位 春日八郎  
Hachiro Kasuga

**19**曲 Songs

「雨の東京よさようなら」「バイ東京」「東京波止場」など  
'Ame no Tokyo yo Sayonara,' 'Baichi Tokyo,' 'Tokyo Hatoba,' etc.



【東京の嵐(春日八郎)／ガラスの宝石(宮加子)】(1959年)  
Tokyo no Ari (Hachiro Kasuga) / Garasu no Houseki (Chikako Miya) (1959)

**2**位 三橋美智也  
Michiya Mihashi

**19**曲 Songs

「東京見物」「東京よいこ」「東京の鳩」「東京が泣いている」など  
'Tokyo Kenbutsu,' 'Tokyo Yoitoko,' 'Tokyo no Hato,' 'Tokyo ga Naite iru,' etc.



【おさらば東京】(1957年)  
Osaraba Tokyo (1957)

**3**位

大月みやこ  
Miyako Otsuki

**16**曲 Songs

「東京しのび違い」「東京暮色」など  
'Tokyo Shinobiai,'  
'Tokyo Boshoku,' etc.



©キングレコード

【東京夜霧】  
(1967年)  
Tokyo Yagiri  
(1967)

**3**位

天童よしみ  
Yoshimi Tendo

**16**曲 Songs

「東京シャボン玉」など  
'Tokyo Shabondama,' etc.



写真提供：衛テイチクエンタテインメント

【パンの耳 coupling with 東京  
シャボン玉】(2011年)  
Pan no Mimi c/w Tokyo Shabondama  
(2011)

**3**位

美空ひばり  
Hibari Misora

**16**曲 Songs

「東京キッド」「霧の東京」など  
'Tokyo Kid,'  
'Kiri no Tokyo,' etc.



日本コロムビア

【東京は恋する街／東京デイト】  
(1960年)  
Tokyo wa Koisuru Machi / Tokyo Date  
(1960)

**4**位

氷川きよし  
Kiyoshi Hikawa

**14**曲 Songs

「東京恋始発」「東京霧笛」など  
'Tokyo Koi Shihatsu,'  
'Tokyo Muteki,' etc.



日本コロムビア

【大井追っかけ音次郎】  
(2001年)  
Oi Okkake Otajiro  
(2001)

**5**位

石原裕次郎  
Yujiro Ishihara

**13**曲 Songs

「東京の日曜日」「東京の夜」など  
'Tokyo no Nichiyobi,'  
'Tokyo no Yoru,' etc.



写真提供：衛テイチクエンタテインメント

【足にさわった青春／俺は東京  
のタフガイさ】(1958年)  
Ashi ni Sawatta Seishun / Ore wa Tokyo no  
Tafugai sa (1958)

**5**位

五木ひろし  
Hiroshi Itsuki

**13**曲 Songs

「東京水中花」「東京三日月倶楽部」など  
'Tokyo Suichuka,'  
'Tokyo Mikadzuki Kurabu,' etc.



©キングレコード

【桜貝／東京ロマンス】  
(2014年)  
Sakura-gai / Tokyo Romance  
(2014)

**5**位

藤山一郎  
Ichiro Fujiyama

**13**曲 Songs

「憧れの東京」「夢淡き東京」など  
'Akogare no Tokyo,'  
'Yume Awaki Tokyo,' etc.



写真提供：衛テイチクエンタテインメント

【東京ラブソング／東京娘】  
(1967年再録音盤)  
Tokyo Rhapsody / Tokyo Musume  
(1967, Re-recording version)

## タイトルに「東京」がつく曲を多くリリースした歌手ランキング

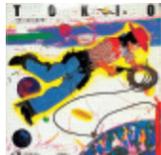
### The Singers Who Released Many Songs with "Tokyo" in the Title

※一般社団法人日本レコード協会の賛助のもと、株式会社ジャパンミュージックデータが保有する1983年以降のアルバム・シングル作品データのなかから、タイトルに「東京」「とうきょう」「トキョウ」「トウキョウ」「TOKYO」「Tokyo」「Tokyo」「TOKIO」が含まれている楽曲を抽出し、組曲とコンセプト・アルバム収録曲を除いて集計。

\*With support from the Recording Industry Association of Japan, we examined data held by Japan Music Data and selected albums and singles with "Tokyo" or "Tokio" in the title (including all forms of Japanese script and the Roman alphabet, irrespective of case) that have been released since 1983. After excluding songs that appear as part of a suite or on a concept album, we then tallied the figures.

TOPICS

**1**



東京の別名、「TOKIO」  
Tokyo, Alias Tokio

【TOKIO c/w I am I (俺は俺)】沢田研二 (1980年)  
TOKIO c/w I am I (Ore wa Ore), Kenji Sawada (1980)

©ユニバーサル ミュージック

ドイツ語やフィンランド語、スペイン語などの言語では、東京は「TOKYO」ではなく「TOKIO」という音訳で表されることがあります。その「TOKIO」がタイトルについていた曲で、特に有名なのが沢田研二の「TOKIO」。1979年11月25日にリリースした同名のアルバムから、1980年1月1日にシングルカットされて発売されました。のちにバブル経済期を迎える80年代の華々しさを先取りしたかのような、電飾やパラシュートをまとった派手な衣装も話題になりました。

In languages such as German, Finnish, and Spanish, Tokyo is sometimes transliterated as "Tokio." One of the most famous songs with "Tokio" in the title is "TOKIO," by Kenji Sawada. Included on the album of the same name released on November 25, 1979, a single edit of the song was released on January 1, 1980. Often appearing in outfits decorated with electric lights or wearing an open parachute, Sawada also caused a stir with his flamboyant costumes, as if presaging the ostentatious excess of Japan's 1980s economic bubble.

TOPICS

**2**



地方出身のアーティストが歌う東京  
Tokyo in Songs by Artists from Other Regions

【東京】くるり (1998年)  
Tokyo, Quruli (1998)

写真提供：ビクターエンタテインメント

地方から東京にやってきたアーティストが歌う「東京」もまた、様々な表情をもっています。例えば京都出身の岸田繁(くるり)や山形出身の峯田和伸(銀杏BOYZ)、大阪出身の谷口鮎(KANA-BOON)は、自身のバンドで「東京」という楽曲を作詞・作曲。若者を中心に人気を集めました。一方で青森出身の吉幾三が作詞・作曲も手がけた「俺ら東京さ行くだ」など、上京ソングも味わい深いもの。東京は夢をかなえる場所であり、華やかさの象徴。その一方で、寂しさを感じたり、ふるさとを想う気持ちが日々生まれている、ドラマチックな場所なのです。

"Tokyo" also has many faces in the songs sung by artists who had come to the metropolis from other regions. For example, Shigeru Kishida (Quruli) from Kyoto, Kazunobu Mineta (Ging Nang BOYZ) from Yamagata, and Maguro Taniguchi (KANA-BOON) from Osaka have all written/composed songs called "Tokyo" with their bands. These have mainly been popular with young people. On the other hand, songs about going to Tokyo from the provinces are also highly evocative, such as "Ora Tokyo Sa Iguda [I'm Off to Tokyo]," which was written and composed by Ikuzo Yoshi, who hails from Aomori. Tokyo is the epitome of glamor, a place where dreams come true. At the same time, it's a dramatic place, where people also feel lonely and think of their hometown every day.

TOPICS

**3**



東京の盆踊りといえば「東京音頭」  
"Tokyo Ondo": the Soundtrack to Tokyo's Bon Odori Dances

【東京音頭-TOKYO RHYTHM】木津茂里×岡村靖幸 (2015年)  
Tokyo Ondo-Tokyo Rhythm, Shigeri Kitsu / Yasuyuki Okamura (2015)

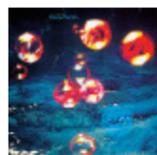
©V4 Record

集計データのうち、46曲が「東京音頭」！盆踊りの定番であるこの楽曲は、「丸の内音頭」というタイトルの盆踊りの曲がもとになっています。1930年代初頭、丸の内界隈の飲食店の店主たちが、地域の景気を活性化させるためにビクターに依頼して制作。1932年、日比谷公園で開かれた「丸の内音頭踊り」で初めて披露されました。そして翌年、タイトルと歌詞を変え「東京音頭」として発売。2015年には岡村靖幸が民謡歌手の木津茂里と組んだ「東京音頭-TOKYO RHYTHM」を発表するなど、時代を超えて親しまれている1曲です。

"Tokyo Ondo" appeared 46 times among the songs in the data! A staple of the Bon Odori summer festival dances, it's based on a Bon Odori song with the title "Marunouchi Ondo." At the beginning of the 1930s, the proprietors of restaurants in the Marunouchi district asked the music company Victor to produce it, to help them to revitalize the local economy. It was performed for the first time in 1932, at the "Marunouchi Ondo Odori" dance in Hibiya Park. The following year, with a change of title and lyrics, it was released as "Tokyo Ondo." While times have changed, this one song has remained close to people's hearts ever since. For instance, in 2015, Yasuyuki Okamura teamed up with the folk singer Shigeri Kitsu to release "Tokyo Ondo-Tokyo Rhythm."

TOPICS

**4**



洋楽は4,827曲中、269曲  
269 of the 4,827 are Western Songs

【紫の肖像】ディープ・パープル (1973年)  
Who Do We Think We Are, Deep Purple (1973)

資料提供：ワーナーミュージック・ジャパン

総曲数4,827曲のなかで、「洋楽」に分類されている楽曲は269曲。イギリスのロックバンド、ディープ・パープルのアルバム「紫の肖像」に収録されている「ウーマン・フロム・トーキョー」や、ボン・ジョヴィの「TOKYO ROAD」などがあります。古来から海外の文化も積極的に取り入れて育ってきた日本。その首都・東京は、時に海外の人にとって遠い異国や異文化のシンボルになるのかもしれませんが。これらの曲で、数え切れないほどある世界の都市のなかで東京がテーマに選ばれているわけを探ってみるのもおもしろそうです。

Of all 4,827 songs, 269 are classified as Western music. They include "Woman from Tokyo," from British rock band Deep Purple's album "Who Do We Think We Are," and Bon Jovi's "Tokyo Road." Japan has actively tapped into foreign culture and made it its own for centuries. Perhaps, as its capital city, Tokyo symbolizes distant lands and cultures for people in other countries. It might be interesting to take a more in-depth look at the reasons why, from among all the innumerable cities across the globe, these artists chose Tokyo as their theme.

街に芸術文化の種をまく

# 東京アートポイント計画 **ハイライト**

Sowing the seeds of art and culture in your neighborhood  
**Spotlight on the Tokyo Artpoint Project**



## NPO

Nonprofit Organization



林 暁甫さん  
Akio Hayashi

アートプロジェクトの企画運営を担うチーム  
**NPOs are the teams that plan and run art projects**

NPO法人インビジブル マネージング・ディレクター。別府現代芸術フェスティバル2012「混浴温泉世界」事務局長、「鳥取藝住祭」の総合ディレクターなどを経て、現在は東京アートポイント計画「リライトプロジェクト」の事務局長を務めている。

Managing Director of NPO inVisible. Having previously served as director for the Beppu Contemporary Art Festival 2012 "Mixed Bathing World" and general director of the Tottori Geiju Festival, he is currently the director of the Relight Project, part of the Tokyo Artpoint Project.

### 社会に新たな価値をつくるためのしくみづくり

私が事務局長を務める「リライトプロジェクト」では、今年度から、市民大学「Relight Committee」を開校しています。そのミッションは、「社会彫刻家の育成」。社会におけるアートの関わりや役割を学び、参加者一人ひとりが考える力を身につけ、それぞれのフィールド（職場や家庭）で新たな価値を創り出すことを目指しています。アートの手法や考え方はそのためのツールという位置づけなので、参加者にはアートの知識の有無は問いません。

また、東日本大震災をきっかけに消灯されたパブリックアート作品『Counter Void』を年に一度点灯するアートイベント「Relight Days」も展開しています。「震災の記憶の忘却を防ぐ装置」として社会に問いかける、アートを活用した取り組みです。

東京で活動を始めて約2年。大都市でアートプロジェクトを展開することに大きな可能性を感じていますが、同時に難しさも見えてきました。地方都市と比較した時、どうしてもインパクトのある手応えはつかみづらい。行政や民間企業とうまく連携して、チームビルディングからもっといいやり方を考えていく必要があります。

東京には、無限に近い数の才能が集まっていて、アウトプットの場もたくさんある。だからこそ、人々が様々な場所で「文化資本」を増やしていく機会をつくるのが、社会全体が幸せになっていくことにつながると思います。そのためのしくみづくりを、これからも続けていきたいですね。

### Developing mechanisms that will create new value for society

The Relight Project, of which I'm director is opening an adult education university called the Relight Committee this year. Its mission is to cultivate "social sculptors." Our aim is to instill in each and every participant the ability to think for themselves by learning about art's relationship to society and role therein, so that they go on to create new value in their respective fields (workplaces and homes). Artistic techniques and approaches are positioned as a tool for this, so the participants don't need any knowledge of art.

We're also organizing Relight Days, a once-a-year art event in which we light up *Counter Void*, a public artwork that was turned off after the Great East Japan Earthquake struck. This initiative poses questions to society through the prism of art, using it as a device to prevent memories of the disaster fading.

About two years have passed since I began my activities in Tokyo. I feel that organizing art projects in a big city holds tremendous potential, but at the same time, I've come to see the difficulties involved as well. It's harder to grasp the impact in terms of feedback than in a provincial city. We need to forge good partnerships with government and private sector companies, so that we can devise better approaches from the team-building stage.

Tokyo attracts an almost unlimited pool of talent and has many places for showcasing their output. That's exactly why I think that creating opportunities for people to increase "cultural capital" in a variety of locations will make the whole of society happier. I plan to continue developing mechanisms for this.

## アーティスト

Artist



友政麻理子さん  
Mariko Tomomasa

プロジェクトのプランを考えたり作品をつくる作家  
**Artists devise project plans and create artworks**

コミュニケーションの過程に現れる「型」にフォーカスした作品を制作。2015年、「アートアクセスあだち 音まち千住の縁」のオープンコンペティションで選出され、足立区・千住でアートプロジェクトを展開した。

Produces works that focus on the "forms" that appear in the process of communication. In 2015, having been selected the open competition at Art Access Adachi: Downtown Senju - Connecting through Sound Art, she undertook art projects in the Senju district of Tokyo's Adachi City.

### 街に残すのは、人のつながりという作品

千住に滞在しながら、街の人たちと自主映画をつくって上映会を開くプロジェクト、「知らない路地の映画祭」を行いました。参加したのは、定年退職したおじさんや街づくりに興味をもつ高校生、日本に移住して間もない外国人など、いろいろな人たち。私も含めた全員が映画制作においては素人でした。

プロジェクトの発起人は私ですが、映画を撮るのは参加者たち。そこには、撮影していると近所の人が気軽に話しかけてくれるような、おおらかな「隙」がありました。その隙こそが、豊かな表現やコミュニケーションが生まれる源になっていた気がします。

「知らない路地の映画祭」は、アートプロジェクトにおけるアーティストの立ち位置を考える契機になりました。このプロジェクトは、アーティストが街に作品を置いていくものではありません。私がこの街を離れたあとも、映画制作を通して生まれたコミュニティは残っていくはず。映画はスタッフ、役者、さらには背景として写り込む風景をつくり出している街の人も含めた、みんなのもの。だから、プロジェクトに自分の名前を冠することにも、ほんとうは少し違和感をもっているんです。街に人が集まれる場（＝おおらかな隙）をつくる。それはアーティストの役割のひとつだと思います。

1年で終了する予定でしたが、継続を望む声をいただいて、今年もプロジェクトを継続できることになりました。この街でもう少し、アートプロジェクトのあり方を考えていけたらと思います。

### Bonds between people will be my legacy to this community

During my residency in Senju, I organized the Unknown Alleys Film Festival, a project in which I worked with local people to make independent films and then held a screening to show them all. The participants ranged from older, retired men to high school students with an interest in urban development and foreign residents who'd only recently moved to Japan. All of us, including myself, were completely new to film-making.

Although I was the one who came up with the idea for the project, it was the local participants who made the films. "Breaks" spontaneously developed when neighbors came out to chat during filming. I get the feeling that it's these breaks that give rise to expressiveness and communication.

The Unknown Alleys Film Festival made me think about the role of artists in art projects. This project didn't involve an artist leaving an artwork in the neighborhood. But the sense of community that emerged in the film-making process should remain even after I've left. The films belong to everyone: the production staff, actors, and even the local people in the background of each scene. That's why I really feel a bit uncomfortable about my name coming first in the project title. I believe that one of the roles of an artist is to create places in the neighborhood where people can gather (=spontaneous breaks).

Initially, the project was only due to last a year, but many people wanted to keep going, so I'm carrying on with it this year, too. I'm hoping to spend a bit more time thinking about approaches to art projects while I'm in this neighborhood.



都内各地でアートプロジェクトを実施し、街・人・活動をつなぐ「東京アートポイント計画」。地域社会を担うNPOと、東京都、アーツカウンシル東京が共催することで、日常や社会に芸術文化が根付き、東京の魅力を創造していくことを目指しています。今年度は13のプロジェクトを展開中。美術館やギャラリーの外で、多様な人と活動をつくりあげる「アートプロジェクト」には、どんな可能性があるのでしょうか？東京アートポイント計画に参加しているNPO、アーティスト、サポーター、プログラムオフィサーにインタビューしました。

The Tokyo Artpoint Project organizes art projects all over the metropolis, connecting people, towns, and activities in Tokyo. Through initiatives co-sponsored by NPOs based in local communities, Tokyo Metropolitan Government, and Arts Council Tokyo, it aims to ensure that art and culture take root in the daily life and communities of the metropolis, thereby adding to Tokyo's allure. Thirteen projects – already underway – are being implemented this year. What are the potential fruits of art projects undertaken outside the confines of art museums and galleries, involving diverse people and activities? We talked to some of those involved in the Tokyo Artpoint Project as NPOs, artists, supporters, and program officers.

## サポーター Supporter



山上祐介さん  
Yusuke Yamagami

プロジェクトを共につくるボランティアやインターン  
Supporters are volunteers and  
interns who join hands in creating projects

2015年春、サポーターとして「TERATOTERA」に参加。その後は「トッピングイースト」「リライトプロジェクト」にも携わる。「思考と技術と対話の学校」2期生。本業は会社員。エンジニアとして自動車や家電製品などの設計業務に従事している。

Participated in TERATOTERA as a supporter in the spring of 2015. After that, he was also involved in Topping East and the Relight Project. He is a second-year student of the School of Thought, Skill, and Dialogue. By day, he works for a company as an engineer, designing motor vehicles and household electrical appliances.

### 内側から盛り上げ、たくさんの人に喜んでもらいたい

「アートプロジェクトって、なんとなく面白そう」。そんなささいな好奇心から「TERATOTERA」のサポーターに応募しました。初めての活動は、2015年11月に行われた「TERATOTERA祭り」の舞台となった三鷹駅周辺のリサーチです。運営スタッフやサポーターで市内を歩き、スポットを探しながら街全体の雰囲気を感じる。いきなり現場に入り、イベントの構想段階から携わることができたのです。その後もエンジニアという本業のスキルを生かしながら後方支援をするうち、アートプロジェクトを内側から盛り上げることの楽しさを知りました。作品をつくっているのは、もちろんアーティストです。自分はあくまでもサポート役ではありますが、作品を見て来場者が楽しんでいる様子を見ると、自分のことのように嬉しいんです。

ほかのアートプロジェクトにも興味がわき、「トッピングイースト」「リライトプロジェクト」にも参加しました。それぞれのベースとなっている街の雰囲気やカラーが色濃く出ていて、アートプロジェクトを通じて東京という都市の奥深さが垣間見えた気がします。

今、東京は2020年のオリンピック開催に照準を合わせた動きが盛んになっています。一方、アートプロジェクトのような文化的活動は、2020年で終わりなんてもったいない。続けていくこと、広げていくことにこそ意義があると思っていますし、オリンピックが終わってからのほうが、むしろ本番なんじゃないかと考えているんです。

### I want to be a part of the team helping art projects to make lots of people happy

Art projects look kind of interesting. It was this vague sense of curiosity that led me to apply to be a supporter for TERATOTERA. The first activity I took part in was research around Mitaka Station, which was the setting for the TERATOTERA Festival in November 2015. I walked around the area with the organizing staff and other supporters, looking for suitable spots while soaking up the atmosphere of the neighborhood. I was thrust straight into the work and was able to be involved in the event from the concept planning stage. After that, while making use of my skills from my job as an engineer to provide logistical support, I got to experience the enjoyment of being part of the team contributing to the success of art projects. Of course, it's artists who actually create the works. Mine is just a supporting role, but when I see people having fun when they come to look at the works, it makes me happy too.

I also became interested in other art projects and took part in Topping East and the Relight Project. I get the feeling that art projects have given me a glimpse of Tokyo's hidden depths as a city, because they are strongly colored by the atmosphere and features of the neighborhoods where they are based.

Right now, Tokyo is a hive of activity focused on the 2020 Olympic Games. But it would be a waste if cultural activities like these art projects came to an end in 2020. I think that continuing and expanding these activities would be meaningful and that they will only truly come into their own once the Olympic Games have ended.

## プログラムオフィサー Program Officer



芦部玲奈さん  
Reina Ashibe

NPOに伴走するアートプロジェクトのプロ  
Program officers are professional art project  
practitioners who work alongside NPOs

あいちトリエンナーレ実行委員会事務局などを経て、2011年より東京アートポイント計画のプログラムオフィサー（アーツカウンシル東京）に。現在は「トッピングイースト」「リライトプロジェクト」「東京ステイ」「三原色（ミハラヒロ）」を担当するほか、東京アートポイント計画の統括も担っている。

Became a Tokyo Artpoint Project program officer (Arts Council Tokyo) in 2011, having previously worked for the secretariat of the Aichi Triennale Organizing, among others. As well as coordinating Topping East, the Relight Project, Tokyo Stay, and Mihairo, she is the overall coordinator of the Tokyo Artpoint Project.

### 現場に寄り添うサポートを

東京アートポイント計画におけるプログラムオフィサーの役割は、NPOと東京都の間に立ち、両者をつなぐことです。また、アートプロジェクトの現場を担うNPOが安定した活動を継続できるように、様々な場面で支援をしています。

今年度私は4つのプロジェクトを担当していますが、活動内容はもちろん、運営するNPOのスキルも様々。いろいろな現場の知見をシェアするために必要なのは、NPOと密にコミュニケーションをとることです。企画の組み立てから体制づくりまで、必要なときに必要なサポートができるよう心がけています。大切にしているのは、NPOの人たちが自由に活動できるような環境をつくること。私も以前はアートの現場で働いていたので、そのときの苦勞を忘れず、現場に寄り添った支援をしていきたいと思っています。

私が感じるアートプロジェクトの面白みは、その活動が社会へ投げかけている意義や問いを考え続けられるところ。振り返って初めてわかることも多いですね。その積み重ねが、いまの私にたくさんの視点をもたらしてくれています。アートプロジェクトはまだ広く浸透しているわけではありませんが、これからの社会において、アートを通して生活圏にある価値を発掘し、人と人を結び付ける活動はますます重要になっていくと思います。より多様な人が関わることのできるアートプロジェクトのあり方を、東京アートポイント計画全体で考えていきたいです。

### Working closely with front-line staff to provide support

The role of a program officer in the Tokyo Artpoint Project is to serve as the link between NPOs and Tokyo Metropolitan Government. We also provide support in various situations to enable the NPOs actually implementing art projects in their neighborhood to carry out their activities smoothly.

This year, I'm coordinating four projects; the nature of their activities varies, as do the skills of the NPOs running them. To share the knowledge you've gained from various front-line activities, you have to communicate closely with the NPOs. I take care to ensure that I provide the support they need when they need it at every stage, from putting together a plan to assembling the structures they need to implement it. I do my utmost to create an environment that enables the people from the NPOs to act freely. I used to work on the front line in the arts, so I want to work closely with front-line staff to support them, never forgetting my own struggles when I was in their position.

What I find interesting about art projects is the ongoing process of examining the meaning of these activities for society and the questions that they pose. There are so many things that you only realize once you look back afterwards. This accumulated experience gives me insight from many different perspectives now. Art projects haven't yet gained widespread traction, but I think that activities that use art to uncover value in our everyday milieu and forge bonds between people will take on growing importance in our society in the years to come. I want to use the Tokyo Artpoint Project as a whole to examine approaches to art projects capable of securing the involvement of a more diverse array of people.

# 東京新陳代謝

Tokyo Transitions

東

京らしい風景って何だろう？  
 ということを数年前からよく  
 考えるようになった。それは

ほかの町に用事があったら出かける機会が増えることだと思ふ。例えば鹿児島市なら桜島が毎日のように噴煙を上げている。日田市なら三隈川が時間帯や天気によって違う表情を見せてくれて飽きない。そういうものを見て感慨に耽った後に東京へ戻ってくると、むくむくと冒頭の問いがわいてくるのだ。

ニューヨークに10年ぶりに行ったのがもう10年前になるのだけれど、好きだった店がなくなり知らないところが多すぎてきていたにもかかわらず、街の印象はほとんど変わらなかった。それは、建物が同じだからだとすぐに気づく。歩くときに目標にしていたようなものはすべてそこにあった。新陳代謝は繰り返されているようだが、風景には馴染みがある。だから安心感と愛着が生まれる。たぶんあれから10年が経った今日のニューヨークも同じはずだ。

ぼくは北海道の炭鉱町で生まれ育ち、そこから一刻も早く逃げ出たくて東京

変わるもの、変わらないもの。  
 日々ゆれる東京のストーリー。

*Things that change, things that don't:  
 the story of Tokyo, a city in daily flux*

ただいま工事中。  
*Currently under construction*

**W**hat would constitute a typical Tokyo landscape? I've been thinking about this a lot for several years now. I think it began when I had increased opportunities to visit other towns and cities on business. In Kagoshima for example, Sakurajima volcano gives off smoke plumes on a daily basis. And in Hita, one never tires of the moods of the Mikumagawa River, which change according to the time of day and the weather. When I go back to Tokyo after seeing such inspiring sights, the initial question pops up again.

It's been ten years since I went to New York for the first time in a decade, and although many of the shops and restaurants I used to like had gone and there were lots of unfamiliar places, the city seemed pretty much unchanged. I soon realized that

誰かに「東京らしい風景って何ですか？」と尋ねられたら、いまのぼくには「クレイン」という答えしかない。

いつ出現するのだろうか。

それが新陳代謝だということはわかるけれど、すべての工事が終了して落ち着いた東京は、いったい



写真・文：岡本仁

*Text and Photograph by Hitoshi Okamoto*

this was because the buildings were the same. The buildings I used to head for on foot were all still there. There seems to be repeated renewal, but the scene is a familiar one. This creates a sense of security and attachment. No doubt New York is still the same, ten years on.

I was born and raised in a mining town in Hokkaido. I was one of those people who wants to get out as soon as possible and left for Tokyo. I've lived in Tokyo for over forty years, so I think the time is nigh when I can safely call it my town. It's high time I had city sights I'm attached to. The area I've lived in for the longest is Shibuya, so I'll think about my favorite Shibuya scenes. The elegant old Shibuya City Office with its gentle curvature is under reconstruction. Shibuya PARCO, which introduced me to various exciting forms of culture, closed just the other day for reconstruction. A building in front of the station which had a Russian restaurant I loved is also being rebuilt. The old Shibuya Tokyu Toyoko line station building has gone underground, and you can see the Yamanote line platforms from the pedestrian bridge. Tokyo is a place that changes its buildings as well as everything else. I understand that this is the nature of renewal, but I truly wonder when all the construction work will be over and a more composed and settled Tokyo will emerge.

If someone asked me to tell them a typical Tokyo scene, "cranes" would be my only response today.

岡本仁

編集者。マガジンハウスにて『ブルーラス』『リラックス』『クワンネル』などの雑誌編集に携わった後、2009年にランドスケーププロダクツへ転職。現在『暮らしの手帖』や『&Premium』でエッセイを連載中。

Hitoshi Okamoto

Editor. After working as an editor at Magazine House on titles like *BRUTUS*, *relax* and *ku:nel*, he moved to Landscape Products. His series of essays currently appears in *Kurashi no techo* and *&Premium*.

信濃八太郎

イラストレーター。1974年生まれ。日本大学芸術学部演劇学科舞台装置コース卒業。同大在学中より美術学科の安西水丸ゼミにて学ぶ。パレットクラブスクール、朝日カルチャーセンター安西水丸塾、コムイラストレーターズ・スタジオ修了。東京イラストレーターズソサエティ所属。



Hattaro Shinano

Illustrator. Born in 1974. Shinano graduated from the Theatre Department (Stage Design course) of Nihon University College of Art. While a student, he started attending Mizumaru Anzai's seminar in Nihon University's Fine Arts Department. He completed courses at Palette Club School, Asahi Culture Center's Mizumaru Anzai school, and Com Illustrators Studio. He is a member of Tokyo Illustrators Society.

## 私の珍プレー - 好プレー

My Odd Plays and Fine Plays



After attending the ceremony for the second anniversary of Mizumaru Anzai's death, I stopped into a bar and ordered Mr. Anzai's favorite cocktail.

"A gimlet. Make it sweet."



"The Long Goodbye," right?

Huh?!



"The Raymond Chandler book. Am I wrong?"



The bartender startled me. I thought he was talking about Mr. Anzai.

"It's good."